

学生支援本部プロフィール

Student Support Profile

2025



学生支援本部

CONTENTS

挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	02	2次支援(イベント関連)・・・・・・・・・・	24
組織図・沿革・・・・・・・・・・・・・・・・	03	01 名大いこまいセミナー・・・・・・・・	25
センター紹介・・・・・・・・・・・・・・・・	04	02 Compus (Communication on Campus)・・	26
01 学生相談センター／Student Counseling Center・・	05	03 同郷の会・・・・・・・・・・・・・・・・	26
02 キャリアサポートセンター／Career Support Center・・	06	04 夕方さんぽ・・・・・・・・・・・・・・・・	27
03 アビリティ支援センター／Ability Support Center・・	07	05 就活相談会・・・・・・・・・・・・・・・・	27
1次支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・	08	06 つながるマップ2024・・・・・・・・	28
学生支援の6機能・・・・・・・・・・	09	07 国際交流・共修プログラム・・・・・・・・	28
01 「大学での学び」基礎論・・・・・・・・	10	3次支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・	32
02 研究環境支援・・・・・・・・・・	11	01 学生支援本部総計・・・・・・・・	33
03 FD活動・・・・・・・・・・・・・・・・	12	02 学生相談センター・・・・・・・・	33
04 心の健康アンケート調査・・・・・・・・	13	03 キャリアサポートセンター・・	35
05 学生支援担当者講習会・・・・・・・・	14	04 アビリティ支援センター・・・・・・・・	36
06 就職担当者連絡会の開催・・・・・・・・	14	家族や卒業生との連携・・・・・・・・	38
07 アビリティミーティング・・・・・・・・	14	01 ホームカミングデイ企画・・・・・・・・	39
08 SNSによる支援・・・・・・・・・・	15	02 ワタリニフネ(同窓会支援事業)・・	40
2次支援(グループ活動支援)・・・・・・・・	16	社会貢献・報道他・・・・・・・・・・	42
01 ピアサポート・・・・・・・・・・	17	01 社会貢献・・・・・・・・・・	43
02 コレクション自慢の会・・・・・・・・	19	02 メディア・・・・・・・・・・	43
03 ゲームの会・・・・・・・・・・	19	学生支援棟案内図・・・・・・・・	46
04 インドアの会・・・・・・・・・・	20	学生支援本部スタッフ一覧・・	47
05 カラフルの会・・・・・・・・・・	20		
06 将棋の会・・・・・・・・・・	20		
07 留年生の会・・・・・・・・・・	21		
08 居場所の提供・・・・・・・・・・	21		
09 キャリアランチ交流会・・・・・・・・	21		
10 ステップバイステップ・・・・・・・・	22		
11 大人の勉強benkyo会・・・・・・・・	22		
12 作文教室・・・・・・・・・・	22		
13 ソーシャル・スキル・プログラム・・	23		

表紙・挿絵

前田遥南(名古屋大学文学部2024年度卒業)

ご挨拶

学生支援本部長 佐久間淳一



名古屋大学学生支援本部は、学生支援センターを改組し、2021年4月1日付で設立された新組織で、今年度は発足5年目ということになります。もともと、学生支援センター自体、2019年4月に設置されたばかりの組織でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大が学生の心身の健康に深刻な影響を及ぼす中で、学生支援の重要性、とりわけ一次支援を強化する必要性があらためて認識されるに至ったことから、学生支援体制の一層の強化を企図して、更なる改組が行われることとなりました。この間、2020年4月には東海国立大学機構が設立されましたが、この改組によって、学生支援における岐阜大学との連携にも、一層強力な体制で臨めることとなります。

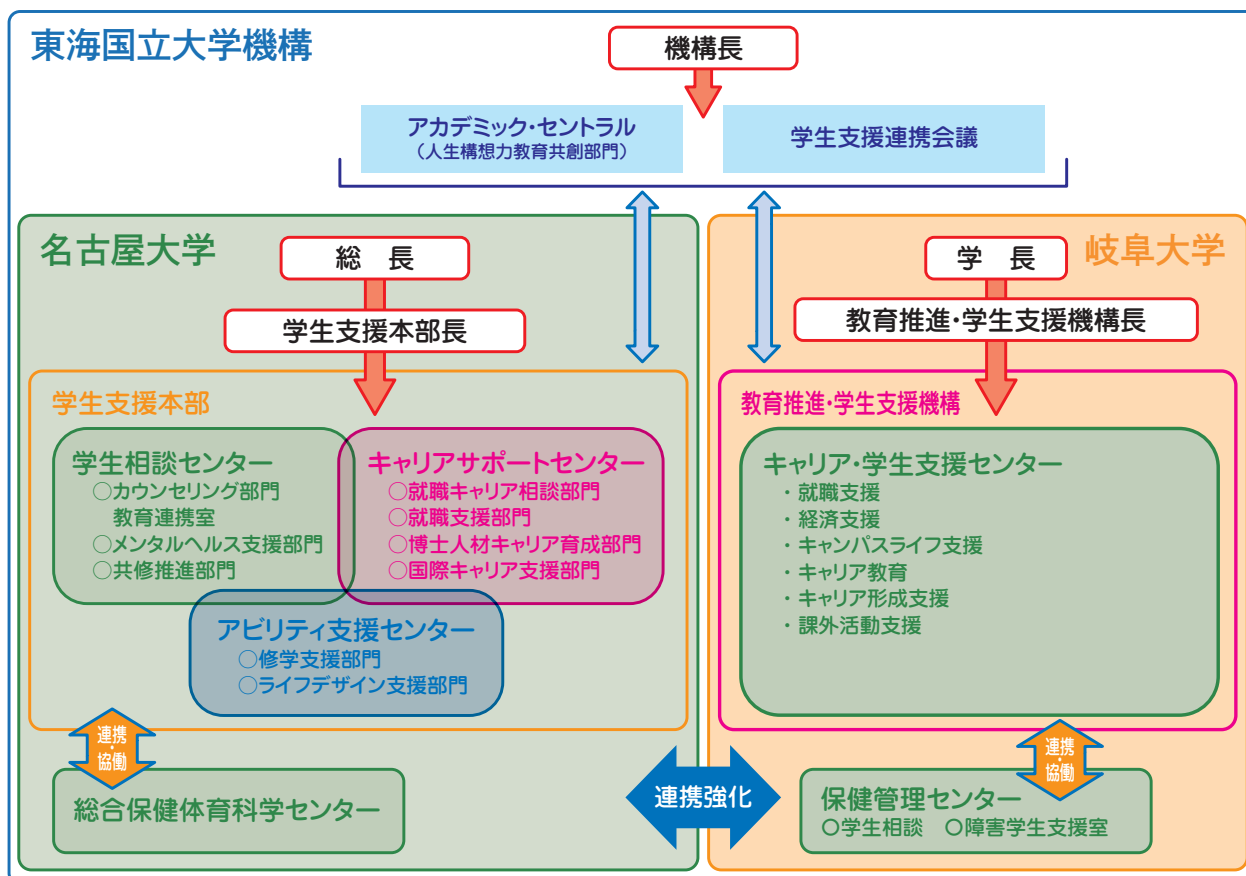
国立大学法人法第22条には、国立大学法人の業務として「学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談その他の援助を行うこと」が二番目にあげられています。本学でも、以前より学生に対する相談や援助への取組は積極的に行ってきたおり、学生支援センターの前身に当たる、2001年設立の学生相談総合センターでは、学生相談部門、メンタルヘルス部門、就職相談部門、障害学生支援室が連携しながら学生対応ならびに支援に当たってまいりました。しかし、近年は、来談学生が増加するとともに、相談内容も多様化する傾向があったこと、また、留学生の増加に伴い、日本人、留学生を問わず、適切な支援を提供する必要性が高まったことなどから、部門間及び留学生受入部門との連携を強化する必要が認識されるようになり、それを受けて設置されたのが、学生相談・共修推進室、キャリアサポート室、障害学生支援室の3つの室から構成される学生支援センターです。学生支援センターをさらに学生支援本部に改組するに当たり、学生相談・共修推進室は学生相談センターに、キャリアサポート室はキャリアサポートセンターに、そして、障害学生支援室はアビリティ支援センターに変わりましたが、「室」から「センター」への名称変更は単なる看板の架け替えではありません。学生支援本部では、各センターがセンター長の指揮の下、より自律的、機動的に現実のニーズに対応することができるようになる一方で、名古屋大学副総長が兼務する本部長が現場を代表する副本部長と共に3つのセンターを統括することによって、入学から卒業まで一貫して学生を支援することが可能となりました。こうして生まれた学生支援体制は、20年来の歩みの一つの到達点と言うことができます。

しかしながら、学生支援センターが学生支援本部に改組されて、学生支援の強固な足場ができたとはいっても、学生支援本部だけで、学生が必要とする支援のすべてを行えるわけではありません。学生が所属しているのはそれぞれの部局であり、学生の状況を直接知り得るのは部局の教員です。悩みや不安を抱えた学生が直接学生支援本部に相談に来る場合もあるでしょうし、また、学生支援本部では、相談に来ない学生の中から実際には悩みや不安を抱えている学生を見つけるための取組も行っていますが、部局及び部局の教員の協力なしで、学生の実情を十分に把握し、一次支援を強化することは困難です。そのため、学生相談センター内に教育連携室を設け、部局との連携強化にも取り組んでいます。他方、学生が悩みや不安なく勉学や研究に取り組めることは学習や研究の成果につながるわけですから、学生の学びの場としての大学にとって、学生支援の充実が教育の高度化や研究の振興と並ぶ重要課題であることを、大学としてあらためて認識することも肝要です。

このように、学生支援は、それをもっぱら担当する組織だけが担うのではなく、全学的な方針の下、学生支援組織と部局が手を携えつつ大学全体で取り組んでいくものでなければなりません。大学には様々な組織がありますが、その中でも重要課題を担う組織は、「本部」なり「機構」なり、それに相応しい名称を持っています。ですから、2021年度の改組によって、学生支援を担う組織の名称に「本部」が入ったことは、本学における学生支援の充実、強化に向けた大きな一歩であることは間違いありません。もちろん、時代の流れとともに、必要な学生支援の中身も変わっていきます。また、新型コロナウイルス感染症は、直接的な影響だけでなく、オンラインが当たり前になるなど、学生を取り巻く環境にも大きな変容をもたらし、大学における学生支援のあり方に大きな課題を突きつけたことも確かです。

本プロフィールでは、発足4年目となる2024年度の学生支援本部の活動状況を紹介しています。学生相談センターでは、新規事業として、2023年度より研究室の環境改善や修学困難学生の早期支援に向けた取り組みを行っています。また、国際共修の推進に向けては、国際本部との兼務と位置付けられていた学生相談センター共修推進部門スタッフの所属を学生支援本部に移すとともに、留学生支援におけるセンター間の連携もより強化していくこととなりました。2024年4月には改正障害者差別解消法が施行され、障害のある人への合理的配慮が義務化されましたが、アビリティ支援センターでは、単に障害に配慮するだけでなく、多様な学生が個性を発揮し、生涯にわたるウェルビーイングの向上につながる支援に取り組んでいます。

学生支援本部では、新型コロナウイルス感染症への対応の経験も踏まえ、今後とも学生支援の一層の充実を図ってまいりますので、関係者の皆様方におかれましては、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



沿 革

- 1956年 学生部により、週2時間の学生相談が開始される。
- 1964年 学生相談室が設置される(兼任相談員1名)。
- 1970年 学生相談室に助手1名が着任。
- 1971年 保健管理センターが設置され、講師1名(精神科医)が着任。
- 1985年 学生相談室の相談員が2名体制になる。
- 1993年 留学生センター内に指導相談部門が設置される。
- 1997年 学務部厚生課内にて週2回の就職相談が開始される。
- [2000年 文科省「大学における学生生活の充実方策について－学生の立場に立った大学づくりを目指して－」報告。]
- 2001年 学生相談、メンタルヘルス支援、就職相談を統合し、学生相談総合センターが設置される。
- 2004年 就職支援室が設置される。
- 2006年 工学部7号館に本部2号館プレハブ棟より移転。
- [2007年 JASSO(学生支援機構)「大学における学生相談体制の充実方策について」報告。]
- 2010年 障害学生支援室が設置される(職員1名)。
- [2013年 障害者差別解消法成立。]
- 2013年 障害学生支援室に特任講師1名が着任。
- 2013年 10月、国際教育交流センターアドバイジング部門が設置される。
- 2018年 就職支援室からキャリア支援室に名称変更。
- 2019年 学生相談総合センター(教育研究組織)から学生支援センター(運営支援組織)に改組。
- 2020年 工学部7号館から学生支援棟(旧職員クラブ)へ移転。
- 2021年 4月、学生支援センターから学生支援本部(運営支援組織)に改組。
- 2022年 4月、国際機構の国際本部への改組により、国際教育交流センターアドバイジング部門は、グローバル・エンゲージメントセンター支援チームに名称変更。

センター紹介

カウンセリング部門 Counseling Division

- ・ カウンセリング部門は、臨床心理士等による学業・進路・対人関係といった学生生活上の悩みや課題について援助・助言を行います。
- ・ 全学学生のこころの健康や心理的成長について縦断調査を実施し、学生支援に活用しています。
- ・ こころの緊急支援を各部門や部局と連携して行います。
- ・ 個別相談以外にも、各種グループ活動（ゲームの会、読書の会、留年生の会、夕方さんぽ等）を実施し、話すことが苦手な学生に対する支援を提供します。
- ・ 学生相談サポーターの活動を指導しています。
- ・ 大学院生や新生を対象とした心理教育を行っています。
- ・ 教職員を対象としたFDを実施しています。

【相談例】

研究室における対人関係の悩み、友達関係や家族関係の悩み、講義や研究に対する無気力感、不登校や休退学、留年、進路変更、将来の不安、性のこと、しつこい勧誘、など。

教育連携室 Faculty Consultation Office

- ・ 教育連携室は、4名の臨床心理士／公認心理師が教職員・保護者（家族）専用の窓口として、学生にまつわる問題解決や学生の成長・発達の援助・助言を行っています。
- ・ 援助に際しては関係者（教職員・家族・各部局・内外の支援者・学生支援本部の各センター）との連携・協働を重視し、そのための支援も行っています。
- ・ 心理教育・グループ活動
「いこまいセミナー」「ウェルネスセミナー」「新生特別講義」など学生・教職員を対象とした各種心理教育プログラムと、「いこまいプロジェクト」など学生の健康と成長へのチャレンジを支える活動を実施しています。
- ・ FD研修・コンサルテーション
部局や研究室を対象とした各種FD研修・コンサルテーションを実施しています。
- ・ 全学学生のこころの健康や心理的成長について縦断調査を実施し、学生支援に活用しています。
- ・ こころの緊急支援を各部門や部局と連携して行います。
- ・ 研究室環境改善支援事業
2023年度より本学の全研究室を対象とした環境改善活動を実施しています。各研究室ごとに課題抽出と改善の取り組みに向けたコンサルテーション・研修・心理教育実践を展開しています。

【相談例】

学生のメンタルヘルス、不登校、適応、障害、無気力、休退学、留年、進路、指導、大学・研究室における人間関係、チーム・組織活性化、スキルアップに関してなど、学生にまつわることは何でも相談を受け付けています。

メンタルヘルス支援部門 Mental Health Division

- ・ メンタルヘルス支援部門は、3名の精神科医が学生の診察、精神療法などを担当し、薬剤の種類は限られますが簡単な処方（保健管理室）も行っています。
- ・ 保健管理室が行う健康診断を用いたスクリーニングによる早期介入、他の相談部門や外部医療機関との連携によるメンタル相談も行っています。
- ・ コレクション自慢の会
それぞれの趣味やコレクションについて自由に語り合うことを通じ、参加者のみなさんの交流を深めていくことを目的とした会を月に一度、開いています。

【相談例】

抑うつ・不安といった症状から、大学へいけない、対人関係の悩みなど幅広いです。学生の他にも、学生の指導にあたる教員および保護者の対応方法についての相談も行っています。

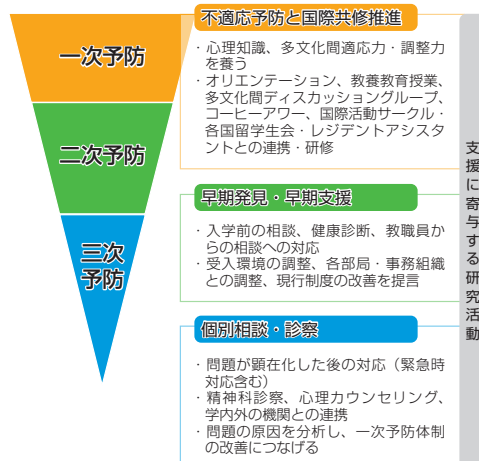
共修推進部門 Inclusive Learning Division

- ・ 共修推進部門はグローバル・マルチキャンパス推進機構グローバル・エンゲージメントセンター国際教育ユニットの4名が兼務しており、留学生などの国際学生や日本人学生等、多様な文化背景を持つ学生たちと協力しながら、多文化共修・協働環境の整備にあたっています。精神科医による診察や治療、心理士によるカウンセリング、国際教育アドバイザーによる相談、学生組織との連携により、国際学生の新しい環境への適応を支援しています。

【相談例】

精神健康に心配がある、新しい環境に慣れるのが難しい、人間関係に悩んでいる、日本の福祉制度を利用したい、学内外で様々な人々と知り合い交流したいなど。日本語と英語で相談に対応しています。

共修推進部門 活動概要



02 キャリアサポートセンター Career Support Center

就職支援部門
Career Support Division

- ・就職活動やインターンシップ、進学に関する相談および情報提供を行います。将来を考えるきっかけを提供すべく低学年から参加できる全学年対象のキャリア支援企画、具体的な就職活動期を支援する就職活動支援企画など時期に適した多彩なイベントを開催しています。
- ・情報提供では、就職資料コーナーを設け、各種ガイドブック、先輩たちの就職活動を記載した就職活動体験記、OB・OG名簿の閲覧、職業適性診断システム（キャリアインサイト）等、就活する学生が自由に活用できるようにしています。また、求人票の閲覧・検索、イベント予約、個別相談予約、進路決定報告の入力、キャリアサポートセンターの来訪企業の確認等ができるシステムを構築し、学生の利便性を図る支援を行っています。

国際キャリア支援部門
International Student Division

- ・外国人留学生に向けた個別就職相談やキャリアランチ交流会（グループ相談）を行っています。日本企業への就職を目指す皆さんが直面する不安や疑問に、丁寧にお応えします。書類添削、面接練習など具体的な就職活動の支援も行っています。英語での相談も可能です。
- ・日本で働くことを希望する外国人留学生に向けて、日本固有の就職活動のしくみや日本の企業文化、ワークルールや社会保険等を学ぶためのキャリア教育を提供しています。
- ・外国人留学生を採用したい企業から集めた「留学生専用求人票」や、外国人留学生に特化したインターンシップの機会を提供しています。
- ・部局における留学生のための就職ガイダンスのご要望も承ります。ご希望の方は、キャリアサポートセンターへお問い合わせください。

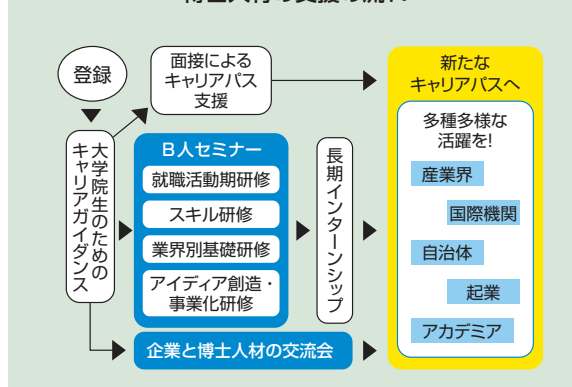
就職キャリア相談部門
Career Counseling Division

- ・3名のキャリアカウンセラーがインターンシップや就職活動上での面接対策やエントリーシートの書き方、企業選択、就職活動の方策から進路に関することまで年間を通じて丁寧に対応しています。また、進学や就職、大学を卒業あるいは修了後の人生に関する悩みや不安、課題などについて、継続的なカウンセリングを行っています。カウンセリングを通じて学生本人が今自分が何をすべきかなど見つめ直す、または新たな発見など社会へ育つ支援を行っています。
- ・学内インターンシップ（ワークエクスぺリエンス）の実施や学外就労支援専門機関と連携し、障害圏域の学生に就業経験を通じて自己理解の醸成や就業への橋渡しも積極的に実施しています。
- ・個別相談以外に、就活サロンやステップバイステップなど、集団相談会やグループワークを開催し、時期や学生の特性に合わせた進路獲得支援を展開しています。
- ・同時に様々な学部・研究科等とガイダンス講義や就職支援講座開催で協同しており、このネットワークを通じて教職員から支援が必要な学生の紹介の輪がひろがっています。
- ・進路決定した学生による就活生支援グループ「就活サポーター」の活動支援・指導を行っています。

博士人材キャリア育成部門
Doctoral Student Division

- ・博士課程教育推進機構キャリア教育室と連動しています。
- ・博士後期課程学生やポスドク（博士人材）や博士後期課程に進学希望の学生を中心としたキャリアパス支援をしています。
- ・キャリアガイダンス、個人面談を中心にして、キャリア形成の講義、セミナー、博士のインターンシップ、企業との出会いの場である「企業と博士人材の交流会」を開催しています。
- ・専門性はもちろん、多様な能力を培ってきたのが博士人材です。アカデミックポディション以外にも、多様な業界や職で活躍するのを支援しています。

博士人材の支援の流れ



03 アビリティ支援センター Ability Support Center

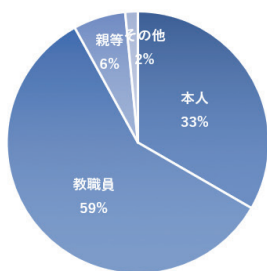
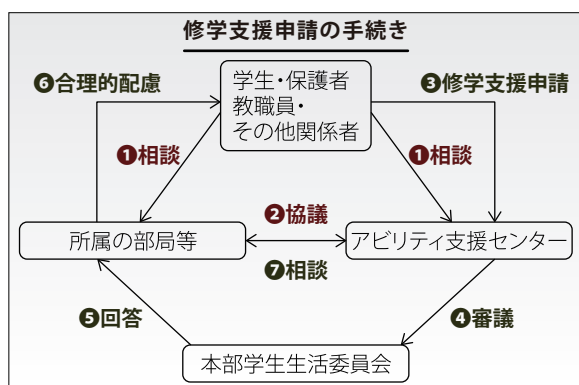
修学支援部門

Academic Learning Division

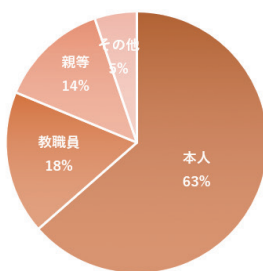
- ・アビリティ支援センター修学支援部門では相談員（准教授、障害者支援専門職、障害学生支援コーディネーター）3名が、障害のある学生と所属部局等を対象に、障害の有無に関わらず、その能力を適切に発揮できるような修学支援にあたっています。
- ・活動の1つは、どの学生にとっても使いやすいキャンパス作りのためのユニバーサルデザイン化を推進することです。もう1つは、それぞれの学生の個別の困難に応じた修学上の調整である、合理的配慮の提供に関する支援を行うことです。
- ・2024年度は、109名（視覚障害1人、聴覚障害4人、精神障害35人、発達障害40人、病弱16人、その他の障害13人）の学生に合理的配慮の提供が行われました。100人を超えましたが、学生数から言えばさらに数が増えると考えられます。また、これまでは発達障害のある学生が半数を占めていましたが、2024年度は精神障害と発達障害で3割ずつとなっています。
- ・障害のある学生の支援を行う学生サポーターを育成するために、障害学生支援レクチャーシリーズ、修学支援スキル講習会、障害理解を深める映画鑑賞会などを行っています。
- ・また、各部局における障害学生への対応や関わり方についての相談、助言なども行っています。
- ・学生に対する啓蒙として、学生対象セミナーも毎年開催しています。

【相談例】

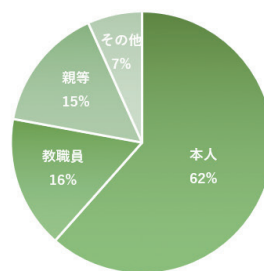
座席指定、試験時間延長、補助器具使用、資料作成・配布、時間管理や課題の管理、研究上の指導・助言などに関する配慮（調整）、施設改修に伴う助言、など



修学支援相談割合（450人）



修学・ライフ相談割合（96人）



ライフデザイン相談割合（104人）

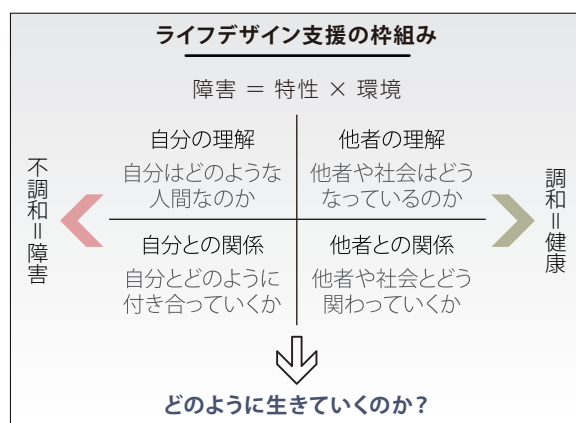
ライフデザイン支援部門

Life Design Division

- ・アビリティ支援センターライフデザイン支援部門は、相談員（准教授、障害者支援専門職、障害学生支援コーディネーター）3名が、障害のある学生の生活に関する問題の支援を行なう部門です。障害のある学生が自分の特性や困難をどのように理解し、どのようにその改善を図るか、あるいはどのような環境を好ましく思うか、それらを踏まえてどのようにして社会の中で生きていくか、といったライフデザインの支援を行います。障害に由来する課題と青年期としての課題との重なり合う状態を、学生個人個人が自分なりに納得できる形でこなしていくことを支えます。
- ・現在行っている活動の1つは、大学生としての学習の仕方を参加メンバーが持ち寄り、共有する、「大人の勉強benkyo会」です。週1回、4、5人の学生が同じ空間で自習し、勉強の仕方について、各自の抱えるテーマについて情報交換をしています。今後、日常生活における困難や生活能力を高めるための工夫を共有する場、自分と周囲の環境、両者の関係性について学ぶ場などを作っていきたいと思っています。加えて、従来どおりの個別の相談による支援も提供されます。
- ・ライフデザインについての情報発信も行う予定です。たとえばしばしば問題となるスケジュール管理や整理整頓の方法やノウハウ、小技、あるいは周囲の人との意図や前提の食い違いの緩和の仕方といった情報を、誰にとっても役立つ形で発信する予定です。

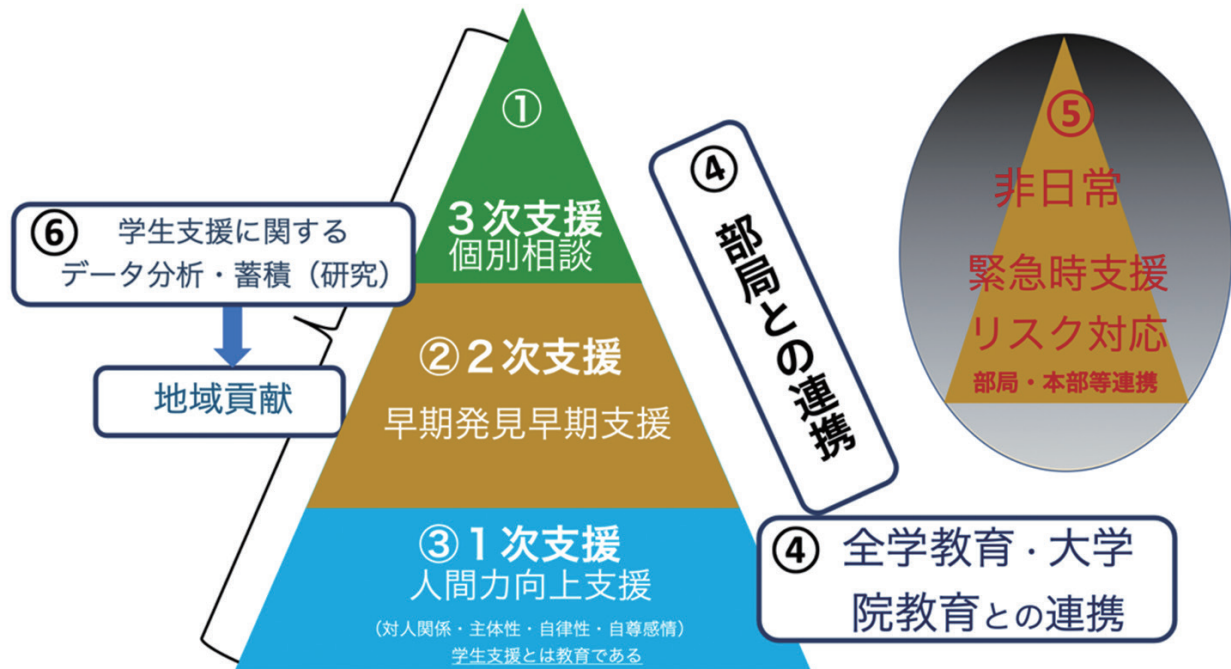
【相談例】

親子関係、障害特性や性格についての理解や対応、自分に障害があるかどうか、どんな仕事に向いているか、などについて（それぞれ関係他部門との連携をしています）



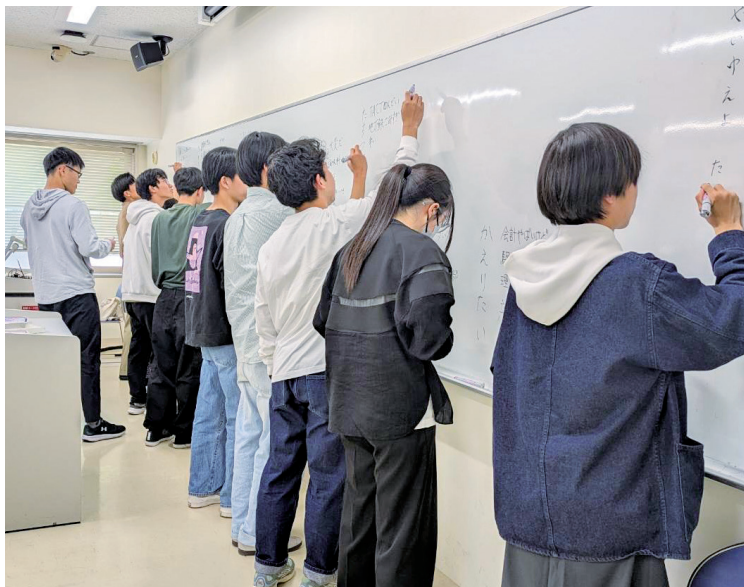
1 次 支 援

名古屋大学における 学生支援の 6 機能 + α



01「大学での学び」基礎論

2022年度から全学教育が大きく変わりました。それまでの知識詰め込み型に陥ってしまいがちだった傾向を改めて、学生の主体的学びを重視した質の高い「知」の獲得を目指すものです。その試みの一つである「大学での学び」基礎論という講義を学生支援本部が担当しました。これは、大学とは何か、大学で学ぶとはいかなることか、大学での学びを充実したものにするにはどのような知恵が必要かについて理解し、主体的な学習者としての態度の核を形成しようとするものです。

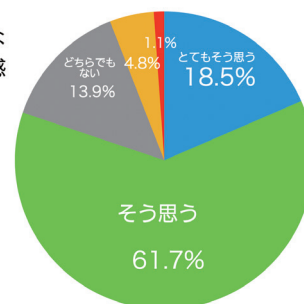


学部新入生全員を対象としたこの授業は、9つの科目から構成されています。学生支援本部は「大学の歩き方」という講義タイトルで、対面授業3回を担当しました。内容は、入学直後のクラス活性化を目的とした相互交流やコミュニケーションプログラム、次世代型セルフケアの解説、多様性や共修、ハラスメントに関する講義などです。

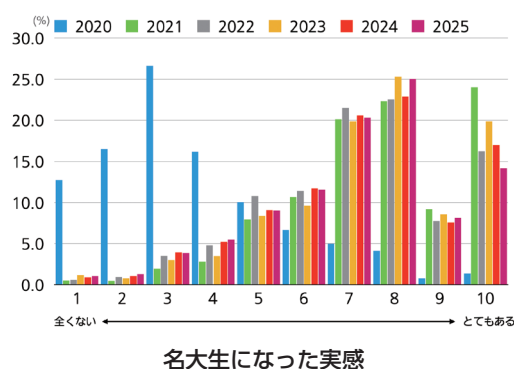
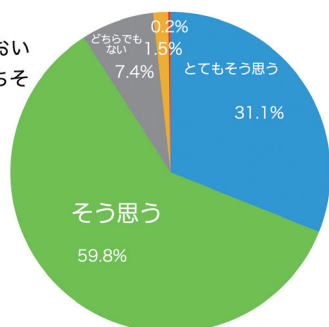
1回目の対面講義は春学期第1週目に、30名前後で構成されている全55クラスを対象に、スタッフ総出で授業を行いました。入学直後にコミュニケーションプログラムを実施した効果は大きく、「クラスの人々と交流を深めることができて非常に嬉しかったです」といった感想が寄せられていました。

この講義は必修科目であることから、入学直後に適応に苦しむ学生を把握することができ、学生支援においても意味のある授業となっています。

クラスメイトとの心理的な距離感は縮まったように感じましたか？



これからの大学生活において、この講義は役に立ちそうですか？



02 研究環境支援：ウェルネスプログラム

名古屋大学の伝統ある自由闊達な研究室の風土をさらに醸成させ発展させるプログラム「研究環境支援」が2023年度からスタートしました。これは総長からのリクエストによるものです。研究室において意識的、あるいは、無意識的に生じている歪な上下関係であったり、ポストコロナの影響によるコミュニケーションの問題を解決するために、研究室を訪問し、学生と教職員を対象としたワークショップを実施しています。2023年度は、各部局FD等で実施についての説明と協力を求め、2024年度は主に生命農学研究科を対象として展開しました。2025年度から本格的に動いています。



主に研究室・ゼミを対象

目的 (Purpose)

- ✓ 勇気ある知識人を育てるために、自由闊達な風土を熟成し、発達させる
- ✓ 大学全体の教育力・研究力向上に貢献する

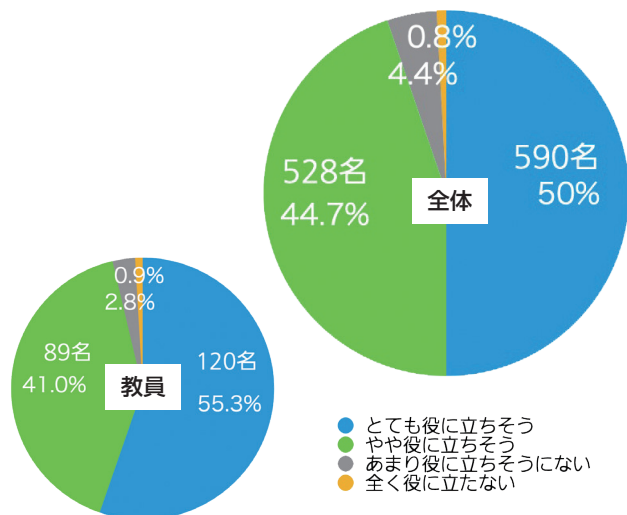
期待される効果 (Expected Effects)

- ✓ 意識の向上とスキルアップ
- ✓ チーム・コミュニティの活性化
- ✓ 個人・集団・組織の強みと課題の整理



AFTER

この研修は今後あなたに役立つと思うか？



教員の感想

- ・この手のワークはたくさん経験したが、初めて有意義な内容（企業経験ある教員）
- ・研究室立ち上げにおいて大変参考になった
- ・入学後から継続的にこのプログラムを実施すると研究室に所属した時にも役立つのではないかと

学生の感想

- ・来年も後輩たちのためにやってもらいたい
- ・研究室の他の学生さんや先生方の考えが可視化されて興味深く貴重な経験だった
- ・普段は先生や上級生の先輩と話をすることがないので、話ができてよかった

03 FD 活動

2025 Student Support Faculty Development Lecture for ILAS
令和7年春 学生支援本部FD
Mental Health and Characteristics of NU Students
名大生における心の特徴と健康
～部局連携のお願い～

1) Student mental health and characteristics
2) Liaison and collaboration, tips for engaging students in need

1) 最近の学生メンタルヘルス・特徴について
2) 連携のお願い（参考事例のご紹介）
3) 研究環境支援・低単位取得学生支援の御礼とご報告

3) Organization support and consultation initiative. Supporting Underperforming Students
学生支援本部 学生相談センター 教育連携室長

松本寿弥 Hisaya Matsumoto
Faculty Consultation Office, Student Counseling Center, NU Student Support

Characteristics of NU Students 名大生の特徴 in Distress

Hardworking in effort to live up to expectations
期待に応えようと真面目でひたむき

自分に対する要求水準が高い Demanding high level of excellence for oneself
・有能感が高く、これくらいのことはできな過ぎやいけないと考える
Expect to succeed on one's own

相談することに慣れていない Not used to seek help, depending on others
・相談することは恥ずかしいこと Shameful to seek help

失敗の経験が乏しく耐性が低い Not used to failure Low resilience
・失敗した時の傷つきが大きい Failure is very damaging

Failure Not working out 失敗するうまく行かないと
孤独 無力感 罪悪感
Not knowing what to do どうしてよいかわからず
フリーズ状態に Freeze

名古屋大学における学生支援の6機能 +α
6 functions of student support

1) tertiary (one to one) support ① 3次支援 個別相談
2) secondary support for quick detection and care ② 2次支援 早期発見早期支援
3) primary (day to day) support for healthy dev ③ 1次支援 人間力向上支援
4) collaboration w/ schls/ctrns/inst ④ 全学教育・大学院教育との連携
5) crisis emergency support ⑤ 緊急時支援 リスク対応
6) research for student support ⑥ 学生支援に関するデータ分析・蓄積（研究）

+α②(2次支援強化) 低単位取得学生支援
+α①(0.x次支援) 研究環境支援

(1) primordial (organizational level) support Supporting the Research Environment

Escorting concerning students to appropriate support 心配な学生を支援につなげるには…

「相談に行っておいで」と声をかけても、相談室などのサポート源とつながることが難しい学生も多い。

telling students to see someone is seldom enough Faculty Consultation Office (FCO)

まずは教職員の方にご相談いただくと心強いです。一緒に学生を支えるセーフティネットを作っていきましょう！
faculty/staff consultation helps us weave a safety net

「教育連携室」のご案内
学生や学生指導、研究室などについてお気軽にご連絡ください。
Please feel free to consult on anything student related
学生支援棟2階(学生支援本部学生相談センター内)
2nd Fl Faculty Support Building
renkei@gakuso.provost.nagoya-u.ac.jp
052-559-9677
We conduct workshops, support change processes
各種相談・研修・ワークショップ(ウェルネスプログラム)
✓メンタルヘルス Mental health skill building team building
✓スキルアップ(コミュニケーション、チームワーク)
✓組織改善(チーム支援)
✓ Consultation in English

連携の相談例
Example of faculty consultation
1st yr seminar instructor reported absent student to FCO for preventative measure
基礎セミナー担当教員:
・「無気力・欠席がちな学生がいます。不調か受講意欲がないだけなのか分からないが、念のため共有します」と教育連携室に連絡 info was shared with ILAS and school
・教員から部局教務・教養教育院事務にも情報共有
・学生に「学生支援本部があるからね」と声かけ
Instructor reminded student of Student Support

2024年度のFDは「名大生における心の特徴と健康～部局連携のお願い～」と題して、松本寿弥教育連携室長を中心に各部局の教職員を対象に実施しました。このFDは春学期の新入生を中心とした名大生の心の健康状態や名大生の特徴をお伝えし、また先生方から寄せられる相談内容に添って、連絡が取れない、死にたいなど危機にある学生への対応と連携方法について説明しました。また2023年度から全学での取り組みを開始した「研究環境支援」と「低単位取得学生支援」についてのご案内とご説明、そして部局の教職員皆様のご協力とご尽力に感謝をお伝えしました。19部局と5つの研究施設等、合計1,002名を対象に実施しました。

04 心の健康アンケート調査

3次支援の学生増に対する1次支援強化策として2019年度からアンケートの充実を図ってきました。2020年度以降、新型コロナウイルスの流行によるメンタルヘルス悪化を懸念し、春・秋の2回アンケートを実施していましたが、2024年度はコロナ前と同様に、春のアンケートのみ実施しました。心理的支援の必要な学生には、個別に連絡し、早期支援を行っています。

1. 心理的基盤に関する尺度（項目は一部）

自尊感情「私は、自分自身にだいたい満足している」
「自分は少なくとも他の人と同じくらい価値のある人間だと感じている」
人生満足度「私は自分の人生に満足している」
社会的サポート「私には困ったときにそばにいてくれる人がいる」「私には私の気持ちについて何かと気遣ってくれる人がいる」

2. 心理的リスクに関する尺度

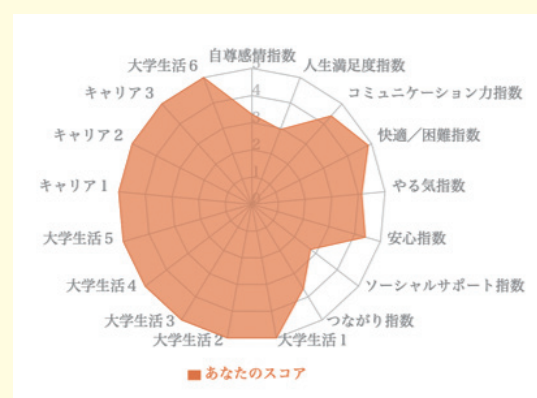
抑うつ「好ましくないことを考えてしまい、コントロールできない」「死にたいと考えることがある」
全般性不安「心配していることがたくさんある」「恐怖やパニックに陥ることがある」

3. 発達障害傾向に関する尺度

自閉スペクトラム症（ASD）尺度（AQ）
「私は、あることにとても強い興味を持つ傾向があり、追求することができないと困惑してしまう」
「私は、人の意図を分かるのが難しい」
ASD困り感尺度「衝動的に行動してしまい困る」「グループ活動では居ごちが悪くて困る」

フィードバック学生数（2024年度回答者数）

4月 学部新生1,948名
5月 2年生以上の学部生524名／大学院生526名
・各学生の結果をレーダーチャートに示してフィードバック



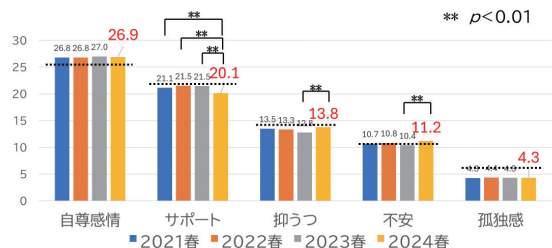
1年次における心理的危機群の割合の変化

「抑うつ尺度」と「全般性不安尺度」が
カットオフポイントを超える群
＝抑うつ高群×不安高群
▶ **心理的危機群**



心理的危機群の割合は昨年度まで減少傾向にあったが、
2024年度の新入生は心理的危機群の割合が高いという結果

1年生のアンケート結果ー過去4年間の比較



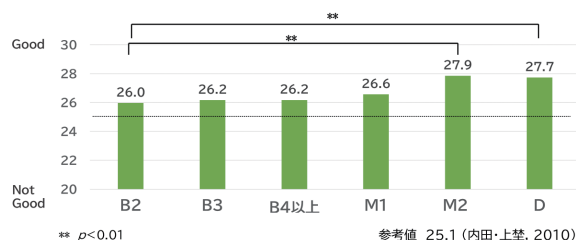
2024年の新生入生はソーシャルサポートの得点が低く、抑うつ、不安の得点が高い
今年は5月にアンケートを実施したが、過去と比較して標準偏差が大きく、
入学後ひと月で個人差が明確になる可能性が示唆される

アンケート概要と回収率

実施年度	2024年度		
学年	1年生	2年生以上	大学院生
実施内容	自尊感情・人生満足度・抑うつ・不安・ソーシャルサポート・孤独感 AQ-10(ASD:自閉症スペクトラム傾向)・ASD困り感・相談希望		
	配慮歴、勉学意欲 キャリアに関する項目		
回答者数	1,948名	524名	526名
回収率	90.6%	6.9%	8.1%
回収方法	Web回答 2024年よりWebシステム「タスクペナ」上で実施		

自尊感情尺度（10項目：1～4点の4件法 尺度得点10点～40点）

項目例：「私は、自分自身にだいたい満足している」
「自分は少なくとも他の人と同じくらい価値のある人間だと感じている」



(参考) 1年生 26.9

学部1年生の抑うつ・不安が昨年と比べて高く、社会的サポートの得点も低い結果となりました。アンケートの実施時期が5月（これまでは3月・4月の実施）であったことから、新生活の疲れが出る時期であり、大学生活をひと月経験し、課題の取り組み、アルバイトや課外活動との両立等、現実的な不安等が高まった可能性が考えられました。また、学部3年生の不安が他の学年に比べて高く、進路についての課題（進学、就職等）が現実的な課題として迫ってくる時期に不安が高まることが示唆されました。各学年の学生生活の特徴を視野に入れたサポートを行っていく必要があると言えるでしょう。

また、M2・D3の学年は自尊感情が高く、抑うつや不安が低い傾向が見られました。コロナ禍以降、大学として様々なアプローチで学生支援を継続してきた成果が現れているかもしれません。2020年度から全学生を対象にアンケートを実施してきたことによって、心の健康の変化の傾向に関する示唆を得ることができました。

05 学生支援担当者講習会

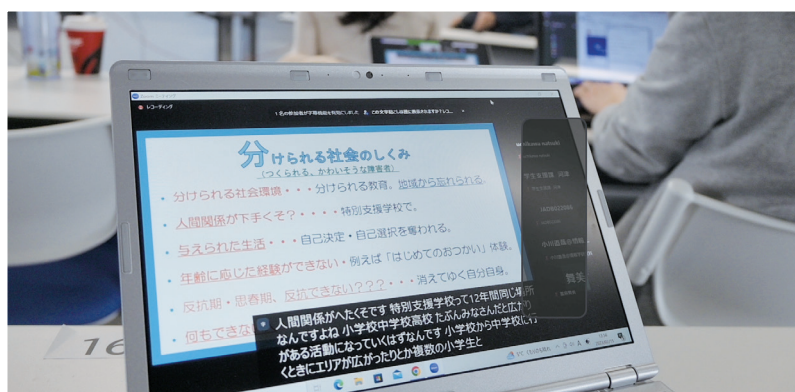
高等教育研究センター「質保証を担う中核教職員能力開発拠点」の取組の一つとして、学生支援本部はオンラインセミナーを2回とワークショップを開催しました。

第1回目のセミナー（2024/11/12）では放送大学教授の大山泰宏先生（現学習院大学教授）より、「高等教育論から見た学生相談」と題して、日本と欧米の学生支援に関する社会文化的な背景をご説明いただき、高等教育の中での学生支援の重要性を提起していただきました。第2回目のセミナー（2024/12/24）では2019年度からV字回復した名古屋大学の学生支援体制と具体的な取り組みをお話しました。またワークショップ（2024/12/9）では、学生支援本部の相談員に対して、甲南大学の高石恭子先生から専門家としてのスキルをご指導いただきました。

06 就職担当者連絡会の開催

各学部・研究科の就職担当教職員全員が会する連絡会議を年に2回開催しており、2024年度は4月24日と12月19日に開催しました。積極的な就職支援策に取り組む学部・研究科の発表などを全学で共有したり、これから就活に入る学生への支援と同時に進路決定の時期が遅れた学生への支援についてキャリアサポートセンターの取り組みを紹介し、学生への周知依頼を行いました。特にこの連絡会では毎年、当該年の「名古屋大学卒業・修了予定者の就職・採用活動に関する申し合わせ」を全担当者で確認しています。実際に学生を指導する上で生じているインターンシップや学生の就職活動・企業の採用活動などに関する問題に対しても積極的に意見交換が行われています。

07 アビリティミーティング

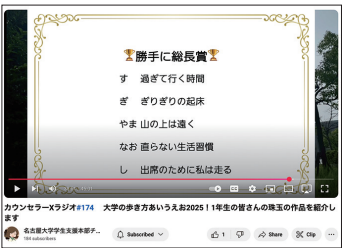


アビリティミーティング（以前は学生対象セミナーでした）、学生サポーターairが主導し、スタッフは広報や大学の手続きなどでメンバーのサポートをしています。

2024年度は、名古屋大学大学院医学系研究科特任教授尾崎紀夫氏、特定NPO法人草のネット理事・ピアサポーター窪田信子氏を講師に招き、「精神障害とピアサポート～当事者と医師の視点から～」というタイトルで開催しました。

08 SNS による支援

カウンセラー×ラジオ



2020年の年末年始に、自粛生活でさみしい思いをしている学生のためのラジオ番組として配信を開始しました。パーソナリティを学生相談のカウンセラーが担当し、学生支援本部の企画するイベントの情報だけでなく、留年経験のある学生やグループ活動のファシリテーターをゲストに迎えたりしながら、2025年3月まで総計160回のラジオを配信しています。

タスケブネ



2021年度より、悩みを相談できるプラットフォームとしてweb上に「タスケブネ」を開設しています。名古屋大学の学生であれば誰でも気軽に相談することができ、対面での相談には抵抗のある学生も匿名で相談ができるものです。学生支援本部のカウンセラーや学生相談サポーターが回答者となり、履修登録をはじめとした各種手続きに関する質問や、心の悩みについて、回答しています。

X



学生支援本部のXアカウントは2017年より開設されていましたが、これまで積極的に活用されることはありませんでした。しかしコロナ感染症の流行により、Web上で情報収集をする学生や家族が増えることが予測されたため、更新頻度を増やし、履修登録をはじめとした各種手続き、食料支援や学生支援本部が企画するイベントなどの情報を積極的に発信してきました。さらに、質問箱も活用し、各種手続きに関する質問や、匿名だからこそ話せる悩みなどについてカウンセラーが回答しています。こうした活動を経て、フォロワーは2,600名を超え、センターとしての相談の窓口を広げることができています。

2 次 支 援

グループ活動／支援

01 ピアサポート

学生相談サポーター



学生相談サポーターの活動は、2004年にスタートし、今年で21年目を迎えました。サポートメンバーはアドバイザー2名、サポーター10名で、様々な学部・研究科のサポーターとして活動しました。活動時間は毎週水曜日の13時から16時まで、場所は、理学共用館でした。活動内容は、「個別相談」「つぶやきノート」「ピアサポスト」「こころの処方箋」「学サポプレイリスト」、そして、新たに始めたオンライン相談投稿システムの「タスケブネ」でした。また、新学期に履修相談を実施し、30名の新生をサポートしました。

就活サポーター



「就活サポーター」は2002年度から活動が続け、進路が決まった卒業期の学生たちがこれから就活に入る学生（プレイヤー）を支援しています。主な活動は、就活生に自分たちの体験を伝えながら相談に対応すること。そのために相談対応やサポーターとしての倫理について研修を通じて学び、サポーターとプレイヤーの双方が安心して対面できる体制を整えています。その他にも自分たちの経験を生かしたグループワーク活動も提供しています。就活サポーターは進路を決定してきたこれまでの活動を振り返り、社会に出て行く自覚を醸成する活動でもあります。設立以来の多くの卒業生との交流や、卒業生自身が互いを刺激しながらキャリアについて考えるネットワークが育っています。2024年度はキャリアサポートセンターでの対面での相談業務をメインに、oViceによるバーチャルでの相談も加え、サポーター20名で運営しました。

障害学生支援サポーター air あいる



学生サポーターの集まり「air（あいる）」は2010年度から活動をしており、2024年度は38名で活動しました。アビリティ支援センターを中心に活動していますが、実際の活動場所はキャンパス内に広がっています。

主な活動の1つは、障害のある学生の修学支援の補助ですが、新型コロナウイルス感染症の影響も収まって、以前の活動に戻っています。アビリティミーティングでは学生サポーターが企画を立て、講師に連絡をして、セミナーを開催しました。また、合理的配慮の一環として授業の動画撮影を行う、試験での補助に入る、学習支援を行うなどの活動を行い、それ以外にもバリアフリーのための構内の調査などを実施しました。

airのメンバーはサークルのように、自主的に活動の方向性や内容をミーティングで決め、アビリティ支援センターと協力しながら活動に当たってくれています。SNSでの意見交換、ミーティング、ニュースレターの発行、手話の勉強会などを熱心に行っています。

障害学生支援サポーターairの集まりの中で、特に人気でair以外の学生にも開かれた活動として「手話deランチ」という自主的な勉強会があります。月に1度、ランチタイムに集まり、日本手話を勉強する集まりです。講師役の学生も先輩から後輩へ引き継がれ、災害時など緊急時に必要な手話から、アルバイト先で出会ったら、といった日常場面で役に立つ手話まで楽しく学んでいます。

びあのわ



2024年11月2～3日に、大阪経済大学で開催された「びあのわ2024」に、サポーター15名と教員6名が参加しました。当日は活動紹介を行い、他大学のサポーターたちと交流を深めることができました。

02 コレクション自慢の会

2025/7/16 フリートーク

今回はフリートークでした！

内容が急遽変更となりましたが、参加者同士でじっくり話すことができ、リラックスした雰囲気でも盛り上がりました👏👏

最近読んだ本やおすすめのゲーム、趣味のイベントや万博の話題など、今後の発表につながるようなお話もあり、来月以降のコレクション自慢の会もとても楽しみになりました👏



1903年にロンドンで出版された日本のガイドブックをお持ちいただきました👏
残念ながら古屋の紹介は控えめでしたが、当時のおすすめスポットを知ることができて興味深かったです！



アニメ『ウマ娘 シンデレラグレイ』と鉄道のコラボイベントも紹介していただきました！
キャラクターのオリジナル系統板を掲出した電車が期間限定で運行していたそうです👏

自由に話すことができるフリートーク形式ならではの良さを感じる、充実した回になりました👏
みなさん、素敵なお話をありがとうございました！！

2024/11/3『京都 知恩寺 古書市への遠足』

11月の会は、年に1回の一大イベント 京都 知恩寺 古書市 へ遠足をしてきました。

15名ほどの参加者のみなさんと、バスで行ってきました👏
台風の影響があり、直前まで天気心配でしたが、朝から晴天に恵まれましたね。
11月3日は「晴れの特異日」で、前後の日に比べて晴れになる確率が高いようです👏

古書市はもちろんのこと、今回は、京都の老舗の和菓子屋さんも話題になりましたね。
それぞれ充実した時間を過ごされたのご報告をいただきました👏
行き帰りのバスのなかでは、DVDの鑑賞も楽しませていただきました！
みなさん、ありがとうございました👏



2007年度、学生支援GPの助成金を取得して、学内にて様々な他部局との連携のもとに、主に不登校・ひきこもりなどの停滞傾向の学生を対象とした様々なグループ活動を展開してきました。そのうちのひとつが「コレクション自慢の会」です。2011年度以降は、学生支援GPを離れ、学生支援本部・メンタルヘルス支援部門主催の活動として引き継がれています。開催は月1回、2時間で、参加者は15名前後です。コレクションを報告することで、研究室へ復帰していくプロセスが認められます。興味や関心を示すinterestには、人と人との間をつなぐinterが含まれています。コレクションを通したコミュニケーションが学生たちの成長を後押ししています。

03 ゲームの会



ゲームの会は、毎週2時間程度、学生とスタッフがセンターの一室に集まり、ボードゲームやカードゲームを行うグループ活動です。コミュニケーションの苦手な学生や、対人関係を築きにくい学生などを対象に、大学内の居場所機能や対人交流の促進を目的として実施しています。コロナ禍では、オンラインと対面のハイフレックスにより実施していました。

また、ボードゲームを行っている、それまで受動的であった学生が主体的に行動するような変化が認められることがあります。中には、オリジナルのゲームを自作してくる学生も現れるなど、ボードゲームを介したコミュニケーションの効果を実感しています。

04 インドアの会



インドアの会は、2019年から開始しました。毎週水曜日の12時から13時までの1時間程度、本、映画、ドラマ、音楽、などなど、インドア派の人が、自由に好きなことをおしゃべりする活動です。2024年度は、43回実施し、延べ97名の学生が参加しました。

05 カラフルの会



これまで話し合ったテーマ（一部抜粋）

カミングアウト

恋愛をする・しないということ

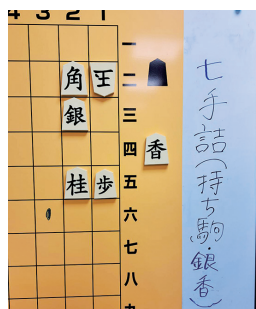
性の多様性と教育

これまでの人生グラフを作ろう

短編映画の上映会

カラフルの会は、「学内のセクシュアル・マイノリティの学生が集い、ざっくばらんに話せる空間」を趣旨として、2023年9月から開始しました。毎回2時間程度、テーマに沿って語り合いながら、学生同士交流をしています。2024年度は6回実施し、延べ30名の学生が参加しました。

06 将棋の会



将棋の会は、2021年から開始しました。毎週水曜日の午後に2時間程度、将棋を愛好する人たちが参加して、対戦をしたり対局を観戦したり、詰将棋を議論したりする活動です。2024年度は、21回実施し、延べ41名の学生が参加しました。

07 留年生の会

留年生の会は、2018年度から開始しました。成績開示後に留年が決まった学生とのカウンセリングの中で、希望者に対して、先輩の留年生から対策講座を行うものです。毎年、半期ごとに開催し、2025年3月には9名の学生が参加しました。

08 居場所の提供



アビリティ支援センターの重要な機能として、居場所の提供があります。事務スペースの前の空間を自習ができるスペースとして、また休憩のできるスペースとして、学生に開放しています。基本的に開室時間（平日10～17時）に滞在可能で、アビリティ支援センターが現在の場所に移転した2020年8月から提供されているものです。常時学生がいるわけではありませんが、多い時には5、6人の学生がテーブルについて、オンライン講義の受講をしたり、課題に取り組んだりしています。支援員も学生の姿が見えやすいため、声をかけやすく、支援の形態として有用であるように思えます。写真奥側の青いパーテーションで区切られた座席は、1人になりたい学生向けのスペースです。障害学生サポーターairの活動もこの空間で行われることから、時には学生同士の交流が生じることもあります。

09 キャリアランチ交流会

学生支援本部キャリアサポートセンターでは、国際学生向けに「キャリアランチ交流会」と「留学生のための就活実践ステーション」という2つの小規模イベントを設けています。

「キャリアランチ交流会」は、毎月2回（日本語1回、英語1回）お昼時間に開催しており、2024年度は年間24回、延べ86人が参加しました。全学部・研究科、全学年対象で、日本で働くことに興味がある学生が、将来やキャリアについて気軽に話せる機会を提供しています。

「就活実践ステーション」は就職活動中の学生を対象に、“企業研究”、“自己分析/自己理解”、“GD練習会”、“面接実践練習会”、“先輩の就職体験を聞こう”など、国際学生の就職活動時期に合わせたテーマを設けて開催しています。2024年度では年間26回開催し、延べ106人の参加がありました。同じ時期に就職活動する仲間を作り、お互いに励まし合って頑張れるようなコミュニティを形成することも「就活実践ステーション」の大きな目的です。「日本の就活について基本的なことからわからない」「自分の経験を後輩にシェアしたい」なども大歓迎です。



10 ステップバイステップ

ステップバイステップは2011年に、学生からの「進路や就職が気になる人たちと集まってあれこれ話してみたい」という声に応えて始まった会です。毎月1回2時間程度、学生と就職相談員が学生支援本部の一室に集まり、趣味や得意なことを教え合ったり、気になる事を話し合ったり皆で試してみたりと活動しています。参加者の学部や学年はさまざまで、一人で参加する人が多いのが特徴です。少人数のグループですので、自分を表現することが苦手な人もゆっくり落ち着いて楽しむ事ができます。2024年度は11回開催し、延べ23名が参加しました。



11 大人の勉強 benkyo 会

2024年11月6日 アビリティ支援センター

毎週水曜15時
11月スケジュール

Nov. 6 秋の勉強会
秋の勉強会
秋の勉強会
秋の勉強会

Nov. 13 SSPと勉強会
SSPと勉強会
SSPと勉強会
SSPと勉強会

大人の勉強benkyo会

全学教育棟3階 C32

先輩学生・専門スタッフに訊く

Nov. 20

Nov. 27 レポートの書き方
レポートの書き方
レポートの書き方
レポートの書き方

大人の勉強benkyo会は、大学での学びに困り感を感じている大学生を対象に、毎週水曜日15:00-17:00全学教育棟で開催しています。障害のあるなしに関わらず、一人一人の認知特性に合った学習法を身につけることを目的とした集まりで、それぞれに課題を持ち寄り自習室として利用もできるかわら、希望すれば15分程度のミニレクチャーを聞くことができます。内容は、認知特性、レポートの書き方、会話のスキルなどです。学生支援本部で実施している他のプログラムを紹介することもあります。

12 作文教室

毎週水曜日 15:00-17:00 全学教育棟C32 (東山キャンパス)

苦手さんのための作文教室

文章作成のコツ、どう学ぶ?

お試し作文で課題発見

課題持ち込み書き方講習

学生サポーター個別相談



多くの支援学生が抱える「レポートが書けない」という問題に対して、中央図書館で「論文の書き方」講座を担当する教員と、日本文学専攻の博士後期課程の学生と共に考えた「レポートを書けるようになる! 8回講座」を毎学期開催している。春学期は、週1回の対面形式、秋学期は集中講義形式のハイブリッド開催で、知識定着のワークを多く取り入れています。最終回には実際の講義での課題にフォーカスした座談会も開催しています。

13 ソーシャル・スキル・プログラム



- ・医療機関では成人期の発達障害（ASD）を対象としたショートケアプログラムが開発され、専門外来のデイケアにおいて実施されている。
- ・しかしながら医療機関における実施では、学生は就労群・未就労群に比べるとコミュニケーションや自己理解についての学習が改善点として考えられ、相澤ら（2023）が大学生に適した内容のプログラムを開発し大学内で実施されている。
- ・さらなる開発や普及に向け、名古屋大学でも名古屋大学版としてアレンジしての実施を依頼され、2024年度より実施している。
- ・名古屋大学でも、先行研究と同様に、参加後のSASS-Jが上昇する傾向にあり、社会適応度向上の可能性が示唆されている。

相澤直子, et al. 発達障害学生を対象としたグループプログラムの学内実施に関する予備的検討ーA 大学における試行的実施からー. 大学のメンタルヘルス, 2023, 5: 107-115.

各回の参加人数と主な感想

	日 程	内 容	人数	参加者の感想の例
1	6月12日（水）	学生生活での困りごと／対人関係の悩みごと	9	他の人のコミュニケーションの悩みを聞いたのは初めてだったので、興味深かったです。
2	7月10日（水）	発達障害とは？	7	いろいろな特性に当てはまっていたが、その特性で特に生活に困っている訳ではない、という気付きもあった。
3	8月21日（水）	自分の特性を知る	6	自分の置かれている環境によって、表裏一体である長所・短所の評価が入れ換わるという整理がわかりやすかった。他人の短所ならリフレーミングしやすい、という気付きがあった。
4	8月28日（水）	ピアサポート	4	今日は皆さんと悩みを共有して、アドバイスや対応策を教えてもらい、実際にやってみたいと思っていました。
5	9月18日（水）	コミュニケーションとは	6	ペアワークが多いと少しやりづらいが、コミュニケーションに関する話題は良かった。
6	9月25日（水）	上手な会話①	6	人によって上手な会話の評価が割と異なることに気付いた。どうしても会話に対して正解・最適解があるのではないかと考えてしまう。
7	10月9日（水）	上手な会話②	3	目を見て話すと、ストップサインやゴーサインが分かるので、意識してみようと思います。
8	11月13日（水）	関係づくり／アサーション	2	アサーションという言葉の意味は知っていましたが、具体的にどうやって実践するのが知らなかった、良い勉強になりました。
9	12月11日（水）	質問・相談する／ほめる	3	実際に私が困っている事柄について、他の人の意見を聞くことができ、理解が深まりました。
10	1月15日（水）	ほうれんそう／ストレスとの付き合い方	4	様々なコーピングの種類や、他の参加者が実際に行っているコーピングの方法を知ることができ、視野が広がりました。
11	1月29日（水）	適性を知る／特性の伝え方修了式	5	ES等を書く上でも役に立つことを知ることができた。正に私に必要な講義内容で、勉強になりました。

アビリティ支援センターと、学生相談センター（担当：2～3回、5～8回）、キャリアサポートセンター（担当：9～11回）共催のプログラムとして、2024年度から実施し、16名の学生が参加しました。対象としたのは、TACT（全学教育学習支援システム）を通じて本プログラムへの参加を希望した学生で、自閉スペクトラム症もしくは注意欠如多動症の診断を受けている（またはその傾向のある）学生支援本部で支援中の学生も含まれます。毎回ハンドアウトを配布し、書き込んでもらいながら進め、終了時には数値で自己評価を記入してもらった感想シートやスタンプシートを用いた視覚化するなどユニバーサルデザインを用いた実施を心がけています。また、段階的にコミュニケーション負荷を高くするなど、継続参加を促す工夫が今後の課題です。

2 次 支 援

イベント関連

01 名大いこまいセミナー

2019年度より名古屋大学の全構成員（学生・教職員）を対象としたグループプログラムとして、「名大いこまいセミナー」を開始しています。このプログラムは岐阜大学で展開されてきたプログラムを参考にしながらも、新しい世界に触れることを目的とした名古屋大学オリジナルのセミナーです。2024年度は、学生たちの活動に光を当てた企画を用意しました。



名大いこまいセミナー 2024
第21回 **被災地のリアル**
～名古屋の地から東日本大震災を語る～

小笠原先生の講演を通して、大震災によって被災地の地がどう変わったのか、被災地の人々はどう生きてきたのか、そして「被災地のリアル」というテーマで議論します。被災地の人々との交流を通じて、被災地をどう支えていくのか、という問いを投げかけます。被災地の人々との交流を通じて、被災地をどう支えていくのか、という問いを投げかけます。

10月30日(水) 13:00～15:00
被災ホール (名古屋大学被災館1階)
Zoomによるオンライン同時配信

参加 無料
当日参加 大歓迎
別冊 オンライン 併用可能

岩倉 南 さん (法学部4年生)
宮城県石巻市南浜出身。小学校2年生の時に東日本大震災を経験。名古屋大学法学部に進学後、ボランティアとして当時の経験や被災地の現状について各地で講演を続けています。

主催/名古屋大学学生支援本部 共催/名古屋大学被災復興研究センター
お問い合わせは、学生支援本部まで soudan@gakuso.provoost.nagoya-u.ac.jp



名大いこまいセミナー 2024
第22回 **「対話会」の世界**

「対話会」とは、分断と対立を乗り越えるための民主的な対話のあり方を追求すること、多様な世代・ジェンダー・価値観を持つ人々との対話を実現し、集団的知を創造するコミュニケーションについて考えることを目的とした活動です。

今回の名大いこまいセミナーは、そんな「対話会」の世界にお誘いしてみたいと思います。

12月25日(水) 15:00～17:00
全学教育棟C34教室
オンライン同時配信

speaker
小松 謙治 (情報学研究所D1)
井上 裕介 (情報学研究所D2)
中島 光一朗 (法学部D2)

名大いこまいセミナーとは？
授業・サークル・バイトなどの日常生活では味わうことのできない新しい世界に触れてもらうことを目的としたセミナーです。セミナーでの新しい体験の共有を、みなさんのスキルアップや交流に役立てていただけたらと思います。

申し込み方法
・下記のQRコードからお申し込みください。
・オンライン参加希望の方は当日までにリンクをお送りください。
・対話参加の場合は当日飛び入り参加も大歓迎です！

主催/名古屋大学学生支援本部
お問い合わせは、学生支援本部まで soudan@gakuso.provoost.nagoya-u.ac.jp



名大いこまいセミナー 2024
第23回 **ピアサポーター 合同活動報告会**

学生相談サポーター × air (あいる) × 就活サポーター

名古屋大学には、3つのピアサポーター団体（学サポ、air、就活サポ）があり、学内で活動するとともに、毎年開催されている全国大学ピアサポーター合同研修会「びあわ」にも参加しています。ピアサポーターってどんな活動をしているの？ピアサポーターの研修会って何をするの？などなど、語っていただきます。興味のある方、ぜひご参加ください！

2025年2月26日(水)
13時00分～15時00分
(途中への入室も自由です)

開催方法
オンライン (Zoom)
※リンクは当日までにお知らせします！

お申込みはこちら
<https://www.nagoya-u.ac.jp/~soudan/2025/02/26/>

お問い合わせは、学生支援本部まで
MAIL: soudan@gakuso.provoost.nagoya-u.ac.jp



名大いこまいセミナー 2024
第24回 **資産形成概論**

今話題のNISA。「投資を始めようって何に何を付けたらいいの？」
「何から学べばよいか分からない！」そんな方は必見！
ポートフォリオ理論の基礎からリスク回避の方法まで。
楽天証券の専任社員が分かりやすく解説いたします。

3月18日(火) 13:00～15:00
Zoomによるオンライン配信

参加 無料
当日参加 大歓迎
別冊 オンライン 併用可能

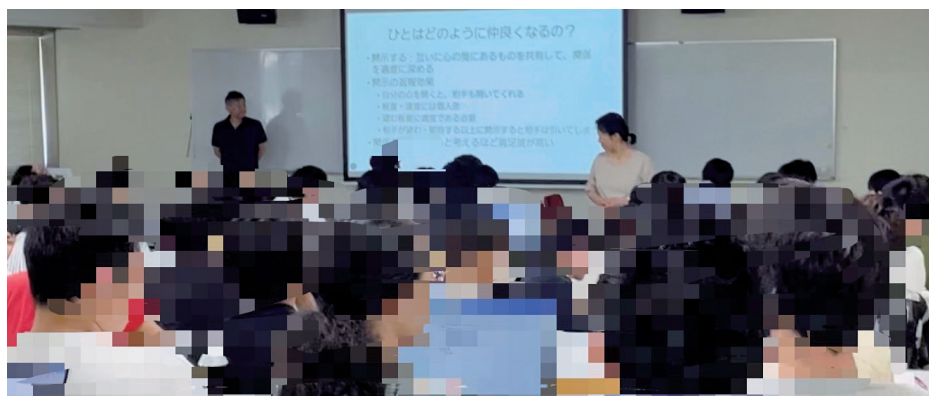
上瀬 悠輔 さん
楽天証券 投資運用室
李 宗桓 さん
楽天証券 債券事業部 (名古屋大学卒業生)

主催/名古屋大学学生支援本部
お問い合わせは、学生支援本部まで soudan@gakuso.provoost.nagoya-u.ac.jp



02 Compus (Communication on Campus)

東海国立大学機構アカデミックセントラルによる取り組みの一環として、ともに生き生きとした社会を作り出せる人を育むことを目指したコミュニケーション力向上プログラムを2021年度より開始しています。このプログラムでは、話す力、聴く力、協調する力、発案する力など、コミュニケーションに必要な力をインタビューや企画会議、アクティブリスニング体験などのグループワークを通して体験的に学びます。2024年度は10回実施し、延べ86名（内、岐大生14名）の学生が参加しました。2025年度は7月までに4回実施し、延べ116名（内、岐大生13名）の学生が参加しています。



03 同郷の会

申込不要
当日参加OK

参加費
無料

名古屋大学
第6回 同郷の会
4/19 (土) 10:30~12:00
場所：全学教育棟 C15教室

☆入学おめでとうございます☆

「一人暮らしがはじまって、わくわくどきどき！」
「出身地の近い仲間がいたらうれしいな」「友だちをつくりたい」
そんな思いを持ったみなさん、C15教室に集まれ～！！

出身の近いグループに分かれて、交流会をします。
同郷の仲間や先輩に出会えるかも・・・

◀InstagramやX (旧Twitter) でも
情報発信中。チェックしてみてくださいね！

新入生の7割以上が東海4県の出身者である名古屋大学においては、高校からのコミュニティを持ち越すことで近隣県出身者の適応は比較的良好です。その一方で、遠方から一人暮らしをスタートさせた新入生にとっては、入学直後の友だち作りがむずかしく、特にコロナ禍においてはそれが顕著でした。2020年度からスタートさせた「同郷の会」は、学部の垣根を越えて、同じ出身地の学生が集い交流できる機会を作るために実施しています。2025年度は4月19日に開催し、54名の学生が参加しました。



04 夕方さんぽ

2025年
6月20日(金)
夕方さんぽ

誰かと想いを通わせるおさんぽをしてみませんか？
誰かと話をしたい方、もやもやすることがある方、
散歩が好きな方、誰でも大歓迎のイベントです。

夕方さんぽは、自分のことを話しながら、色々な人の話を聞きながら、すっきりあたたかい気持ちになるウォーキングイベントです。
トークテーマに沿って誰かと心をかよわせながら歩いてみませんか？

開催日時：2025年6月20日(金) 16:30～
開催場所：東山キャンパス 学生支援棟
対象：名古屋大学の全学生・先輩30名
服装等：歩きやすい格好・持ち物
申込み：6月19日(木) までに下記の応募フォームから
<https://forms.gle/CyAJuLhXz8gLT2n58>

～参加者の声をご紹介します～
・目が暮れるにつれてこころの深い部分の話ができた。
・自分自身を見つめるよい機会になった。一緒に歩いてくれた人とても優しく接してくれて嬉しかった。

詳細・申し込み


主催：名古屋大学学生支援本部
協力：Love Life Project (名古屋市長の「ナゴヤをつなげる30人」で発足したプロジェクトです。)

タイムスケジュール

- 16:15 受付開始
- 16:30 オープニング
・ルール、歩き方の説明
- 16:40 夕方さんぽスタート
・3～4人で1チーム
・トークテーマに沿って会話
・名古屋大学を自由に散歩
- 18:15 チェックアウト
・夕方さんぽについて
- 18:30 解散




夕方さんぽ ノート



1 2025.8.20

2022年10月に学生主導で発足した、自分のことを話しながら、また色々な人の話を聞きながら、すっきりあたたかい気持ちになるウォーキングイベントです。月に一度、16時半から18時半までの夕暮れ時に開催しています。2022年度は12回開催し、さまざまな学年や国籍の学生が延べ112名参加しました。2025年度は8月までに5回開催し延べ61名(内、留学生16名)が参加しています。参加者はチェックイン後に小グループに分かれて、夕方さんぽノートを手にとりトークテーマに沿って会話をしながら、大学内を自由に約1時間半、歩きまわります。今後もあたたかな居場所づくりに励みます。

05 就活相談会

就活相談会は、就職相談員が学生のニーズに合わせたタイムリーなテーマで開催する少人数制のグループワークです。2012年度にスタートしました。テーマは、エントリーシートや面接、グループディスカッションなどとし、お昼の1時間、対面やオンライン(oVice)で、レクチャーを受け質問や相談ができる機会となっています。テーマを決めずに就活サロンという形で、就活に関して気になることを自由に相談できる集団相談会も開催しています。2024年度には、2025年4月入社を目指す学生対象の就活相談会を13回開催し延べ67名が参加しました。また、2026年4月入社を目指す学生対象の就活相談会も18回開催し延べ144名が参加しました。

2025年4月入社を目指す学生向け 7月

2025卒 名大生のための 就活相談会

12:10～12:50 定員：15名(要予約)
オンライン開催：oVice ※カメラはONでご参加ください
NU-NAVI→トピックス→オンライン窓口より入場

就職相談員と一緒に皆さんのもやもやについて考え解消する会です

どうしようもない...
みんなどうしてるの？

これからの就活の進め方、どう
したいの？

就活サロン(なんでも就活相談会)
～今の時期の就活、みんなどうしてるの？～

就職相談員 7/24(水)

周りに就活のこと話せる人
がいないです...

【予約方法】NU-NAVI(支援行事の参加予約)より→


名古屋大学
キャリアサポートセンター
【お問い合わせ先】
052-789-2176
shiten-career.evententry@mail.nagoya-u.ac.jp

2026年4月入社を目指す学生向け 7月

2026卒 名大生のための 就活相談会

12:10～12:50 定員：30名(要予約)
オンライン開催：Zoom カメラをONにできる場所からご参加ください
※開催日前日に会場のURLをメールにお送りします

個別相談が得意でも
テーマが合えばこちら
らにご参加ください

インターンシップなんでも相談会
～応募して結果はまだ出てないけど、
色々心配になってきたあなたへ～

船津相談員 7/10(水)

インターンシップなんでも相談会
～この時期、予定通りに進んでないあと
立ち止まってしまったあなたへ～

竹本相談員 7/30(火)

予約後に都合が悪くなった方はキャンセルをお願いします。
あなたの席を他の方へ譲ってください。

【予約方法】NU-NAVI(支援行事の参加予約)より→


名古屋大学
キャリアサポートセンター
【お問い合わせ先】
052-789-2176 添メールは申し込みが受け付けられ
shiten-career.evententry@mail.nagoya-u.ac.jp

06 つながるマップ 2024



障害学生就労支援者研修会—つなげるマップワークショップは、障害学生を取り巻く昨今の実態をふまえた上で、今後望ましい支援に向け、支援する者同士が知恵とネットワークを強化するための研修会です。2024年度は12月17日に開催しました。企業・障害者支援機関・大学から、障害学生就労支援者が38団体56名参加し、つなげる事例の報告やグループワーク等を通じて、理解と連携を深めました。

07 国際交流・共修プログラム

国際学生の相談のほか、国際交流・共修プログラムを開催しています！

プログラムの一例



スモールワールド
コーヒーアワー



アットホームな雰囲気
で気軽に国際交流！



プレゼンテーション
アワー



名大生のカジュアルなプレゼン
を楽しみましょう！



にほんごカフェ



「にほんご」で
国際交流しませんか？



多文化交流ラウンジ
「ここあ」



ココアのように、
「ホッ」と心温まる場を提供

スモールワールド・コーヒーアワー

スモールワールド・コーヒーアワーは、キャンパスにおいて在学生在が学部や学年を越え、つながることのできる国際交流の場として展開しています。共修推進部門と連携しながら学生メンバーが主体的に運営や企画に関わっています。2024年度は、定期的に言語化カフェを開催し、書道体験会、アイスクリームアワー、名古屋城への遠足などを実施しました。



プレゼンテーションアワー

学生のプレゼンテーション能力を高めること、グローバルなアカデミックな交流の場づくり、学生間のネットワークを構築することを目的に年に2回、学生コーディネーターと協働で開催しています。卒業生にもプレゼンターや参加者として協力いただき、現役生と卒業生の交流の場としても機能を果たしています。



にほんごカフェ

夏休みや春休みなどの長期期間中に、留学生と一般学生が日本語を用いて対話し、楽しめるような機会を提供しています。学生ファシリテーターがグループディスカッションを促す役割を果たしています。参加学生は、日本語の練習の機会、海外や多様性に対する視野を広げる機会となっています。



Nagoya University 名古屋大学
Nihongo Café

3月の春休みに、名古屋大学と岐阜大学の留学生や国内学生の皆さんでおしゃべりしませんか？
毎回、参加者間で自己紹介して、気軽に話せる場にしたいと思っています。
主に日本語を使いますが、お互いにサポートしあいながら進める予定です。
ご参加お待ちしております！

Nihongo Café is a gathering opportunity for international & domestic students of Nagoya University & Gifu University during spring break.
We will mainly use Japanese, but will support each other. Nihongo Café is a relaxing time where participants can introduce themselves and talk casually with each other.
We look forward to your participation!

2025
3/7(Fri)
3/14(Fri)
3/21(Fri)
14:30-16:30

言語：日本語（必要に応じて英語も使います）
参加費：無料
場所：名古屋大学東山キャンパス 国際棟1階ラウンジ
定員：各回20名程度

Language: Mainly Japanese, English will be used as needed
Fee: Free
Place: 1F International Center Lounge, Higashiyama Campus
Capacity: 20 students each session

申し込み
Registration

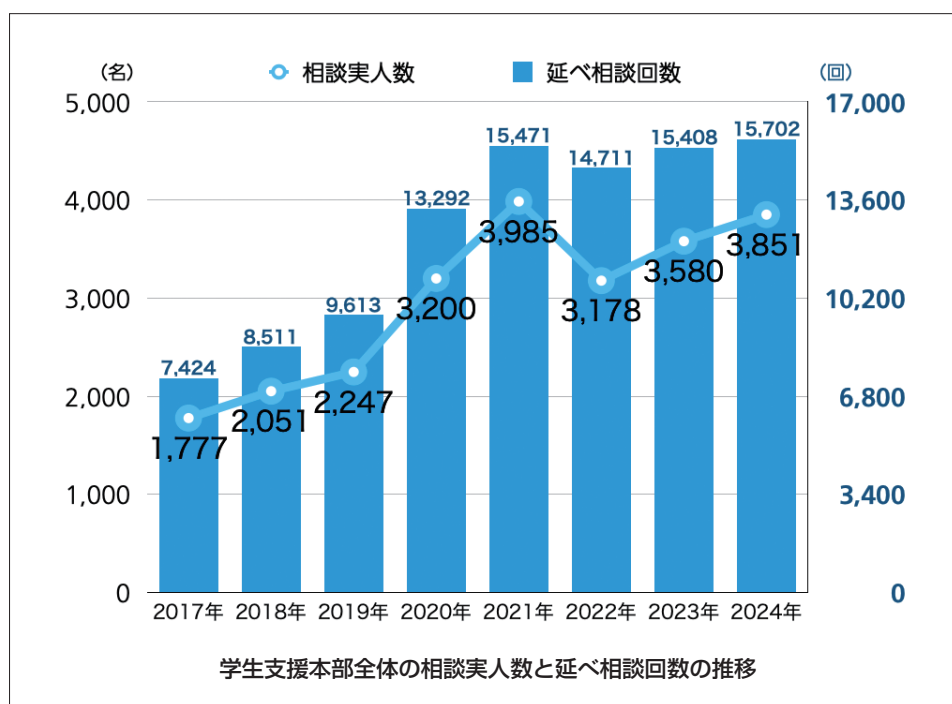
申込締め切りは
実施日の4日前までです
Registration deadline is
4 days before each session.

<https://forms.office.com/r/f3BnJfmxp>

問い合わせ/inquiry:
名古屋大学グローバル・エンゲージメントセンター支援チーム
Global Engagement Center Support Team, Nagoya University
isa@it.mail.nagoya-u.ac.jp

3 次 支 援

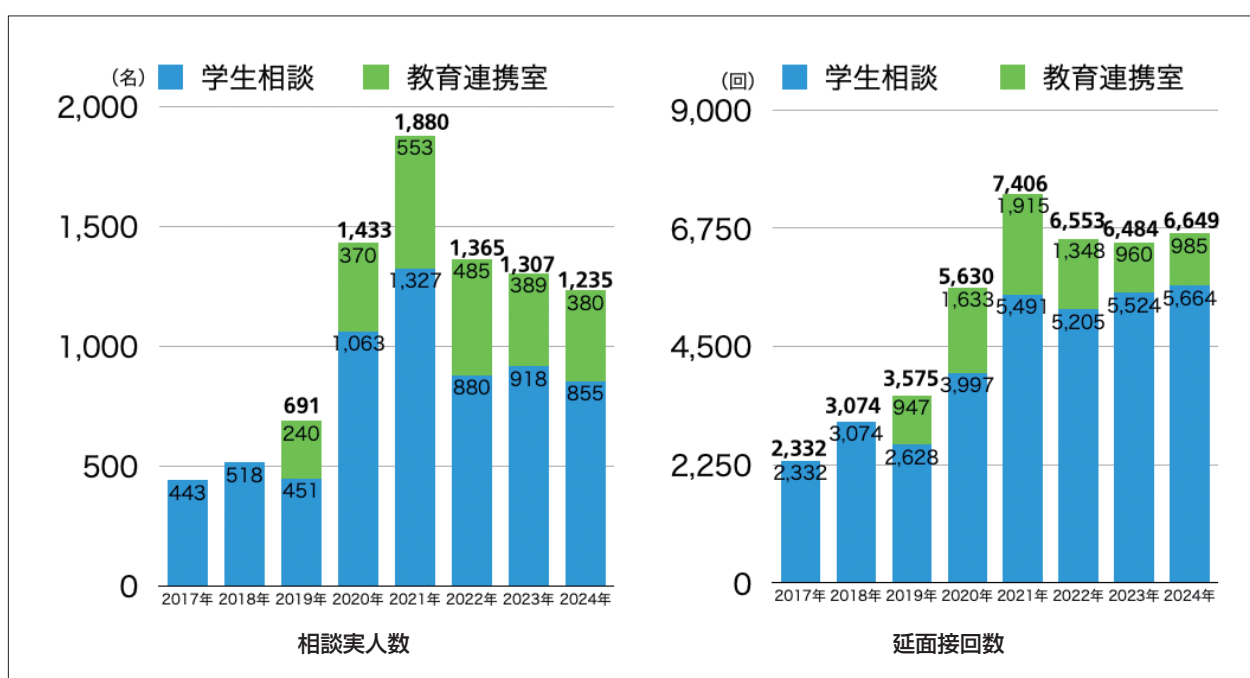
01 学生支援本部総計



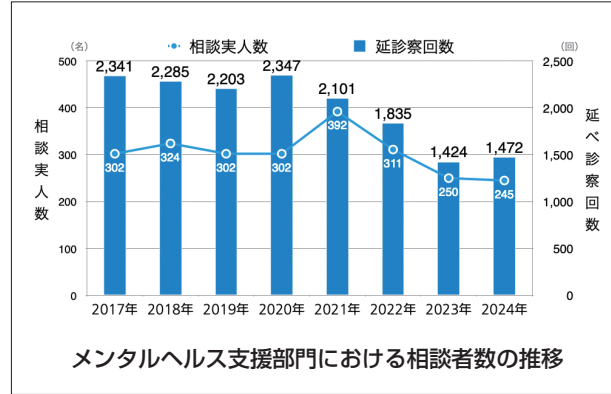
個別相談利用は全学生の24.3%

02 学生相談センター

カウンセリング部門

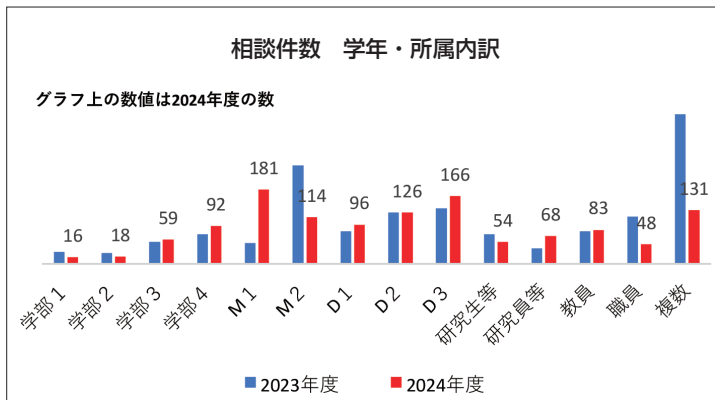
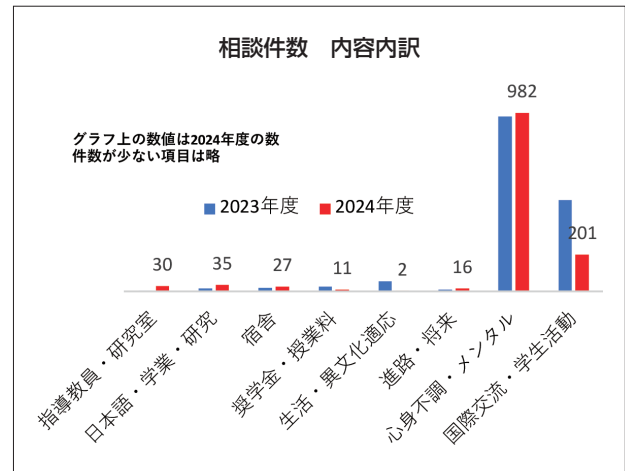
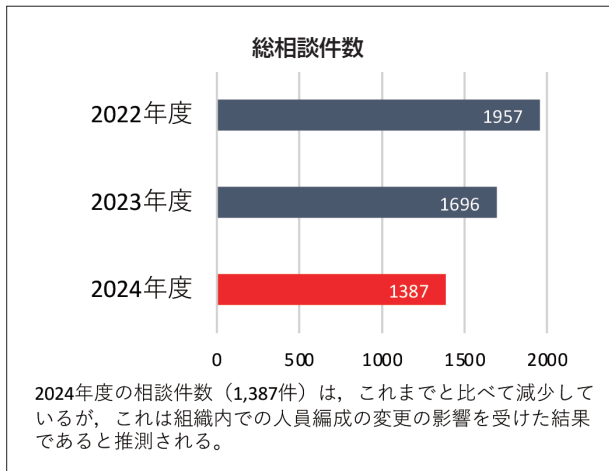


メンタルヘルス支援部門



相談者数はピーク年度の6割に

共修推進部門

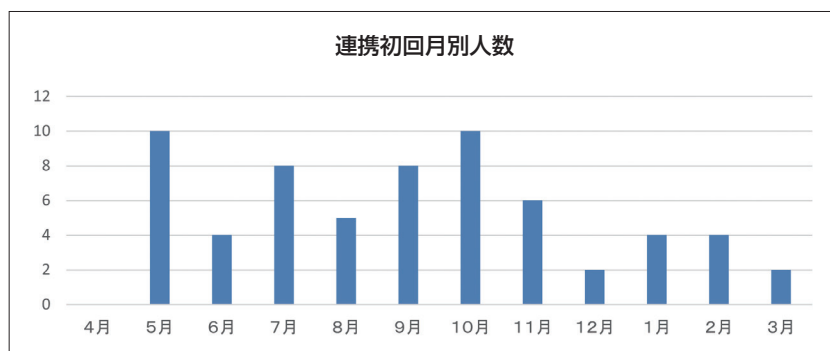
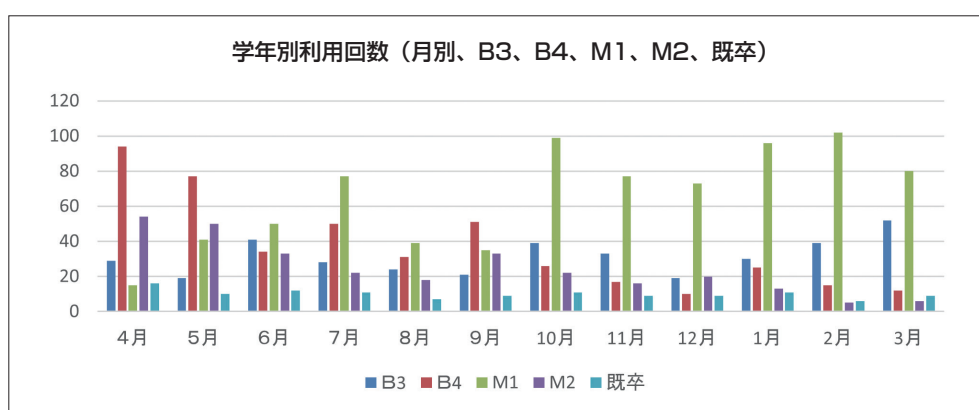
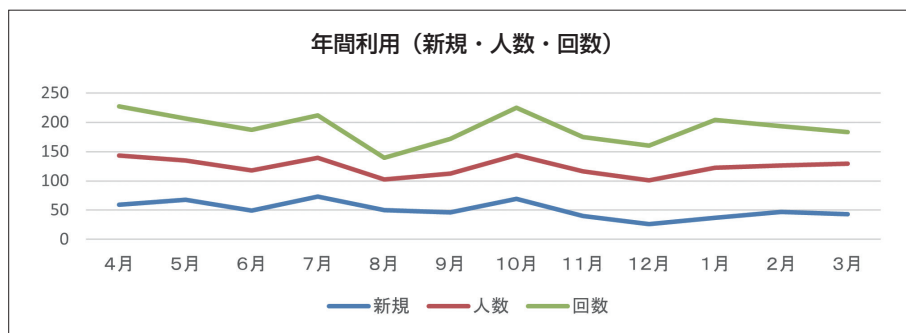


- ・2024年度の相談における使用言語は、英語が全体の半数以上を占める。
 - ・「心身不調・メンタル」は全相談のおよそ70%と、過半数を占める。
 - ・「国際交流・学生生活」（共修推進）も全体の15%程度を占め、重要な役割を果たす。
 - ・教職員をはじめ、学生以外からの相談もある。
- ※共修推進部門の活動報告は、国際本部グローバル・エンゲージメントセンター年報に、詳細を掲載しています。

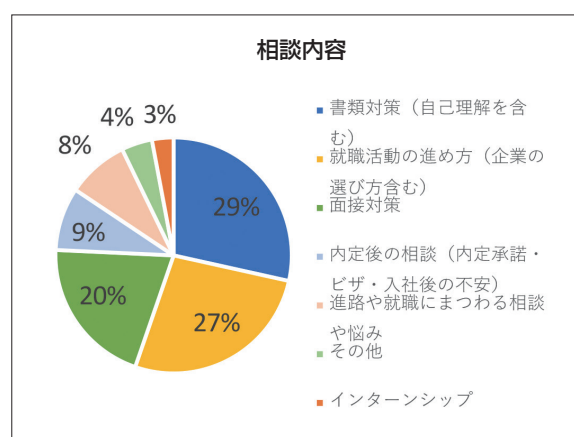
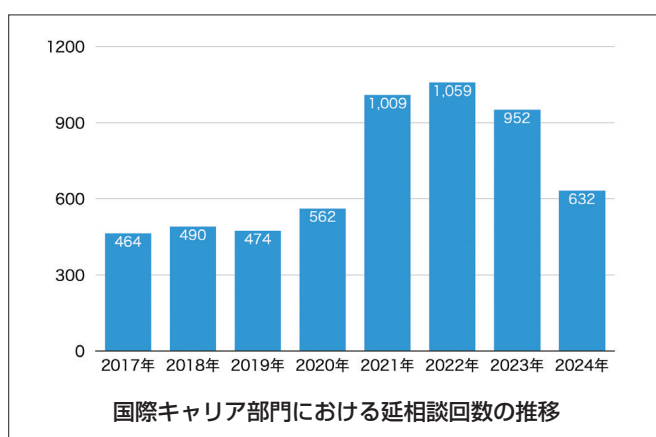
「心身不調・メンタル」および「国際交流・学生生活」に関する相談多数

03 キャリアサポートセンター

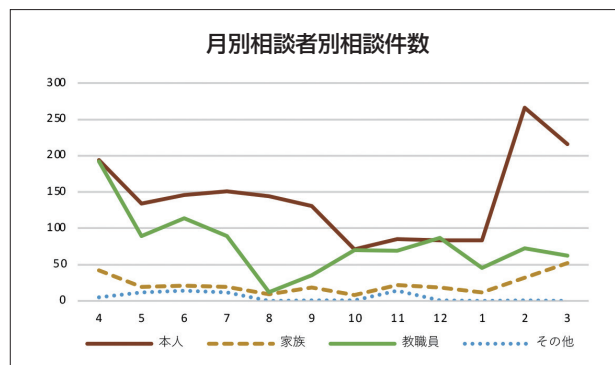
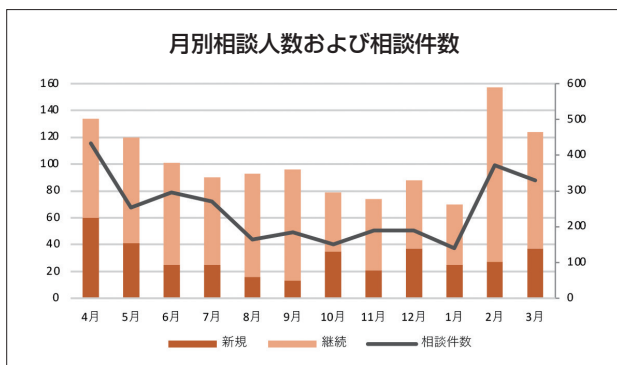
就職キャリア相談部門



国際キャリア支援部門



04 アビリティ支援センター



- ・相談件数は述べ2973件であった。学生の相談件数は全体の57.2%となっている。家族からの相談は全体の9.1%、教員との相談は全体の31.5%である。全体として相談件数は増加傾向にある。
- ・合理的配慮の申請は年間109名で、発達障害のある学生と精神障害のある学生で3割ずつとなっている。申請手続きを簡略化したことで、学期末から学期始まりにかけての合理的配慮申請に関する相談の件数が減少している。
- ・コロナ禍が収まってきたことで家族からの相談が減り、オンラインでの相談も減っている。
- ・難病やそれに伴う入院などを必要とする学生、留学生からの相談が継続的に増加する傾向にある。

部門ごとの相談者・相談形態別相談件数

	本人	家族	教職員	その他
修学支援	1091	154	824	35
ライフデザイン支援	332	68	95	26
両方	281	50	17	0
合計	1704	272	936	61

- ・合理的配慮を扱う修学支援部門での相談が大部分を占めている。学生本人との相談とともに、配慮内容について検討を行うための教職員等の相談件数も多いところに特徴がある。
- ・修学支援については合理的配慮への導入や学習支援についての問い合わせなどの形で家族からの相談がある。また、欠席や留年、休学など大学からは見えない本人の状況について、情報交換をする際にも関わりが生じる。
- ・ライフデザイン支援部門では、本人からの修学に関する相談や生活上の困りごと、および就職に関する相談が多くなっている。ここでは教職員よりも家族との連携がより重要になってくるために、割合が増えている。
- ・教職員とは就職に関する情報交換を行うことが多い。
- ・その他には外部の支援機関との打ち合わせ、情報交換、連携などが含まれている。

障害分類と合理的配慮内容の分類

	視覚	聴覚	肢体	精神	発達	病弱	他	計
キャンパス内移動支援	0	0	0	1	0	10	0	11
教材や講義資料の変換など	1	0	0	0	1	4	1	7
修学に関連した支援	2	14	0	29	89	22	6	162
教室内調整	1	6	0	50	27	29	20	130
試験調整	1	0	0	41	21	16	23	99
その他	0	1	0	5	15	3	2	26
総計	5	21	0	126	153	84	52	438

- ・JASSOの分類にならない病弱に分類されている学生は多くが肢体不自由の学生であり、そのために移動支援が必要となっている。
- ・講義資料は電子化されていることがほとんどであるため、視覚的問題や聴覚的問題があっても対応がしやすくなっている。
- ・修学に関連した支援は学び方に関連した支援であるが、その多くが、提出期限の延長や重要な情報の文字による提示であり、他に発言や発表の調整、グループワークに関する調整、指示の具体化などである。
- ・教室内の調整、試験の調整は、遅刻・欠席への配慮が中心で、他に評価方法の調整、症状緩和手段の使用許可などがある。

就労支援ミーティングの共催

キャリアサポートセンターからの提案を受け、障害のある学生の修学支援から就労支援への橋渡しをするためのミーティングを不定期に実施しています。キャリアサポートセンターで行う障害のある学生を対象としたイベントについての情報共有と、そうしたイベントへのアビリティ支援センターからの参加、それを通した障害者雇用についての企業の意識や動向の共有を行っています。また、両方のセンターを利用している学生もあり、その情報共有の場ともなっています。

家族や卒業生との連携

01 ホームカミングデイ企画

2024年10月19日（土）15～17時、ホームカミングデイにおいて保護者企画「本音で話そう、語ろう！ #ほっとチャット」を対面とオンラインのハイブリッドにて開催し、18名（対面14名、オンライン4名）が参加しました。また、就活サポーターのOBOGと現役生とのコラボ企画である、さんぽ de キャリア（対面のみ）には22名、ゲームdeキャリア（対面のみ）には33名が参加し、3企画とも大好評でした。



名古屋大学 ホームカミングデイ

本音で話そう、
語ろう！
#ほっとチャット

学生といってもまだまだ子ども？
それとも大人？

大学生を持つ親の本音を語り合い、日頃の子供へのかかわりや親としての思いを共有したいと思います。
ご関心のある方、どうぞご参加ください。

10月19日（土）
15:00～17:00

申込はこちら



学生支援本部親の会

2019年度のホームカミングデイ「名大生復活物語～明日の歌を唄おう～」に参加していた保護者で、子どもの留年に悩んでいた方が偶然に出会い、LINE友だちとして出会ったことが契機となり、「親の会」が発足しました。

2025年3月現在、27名の登録です。渦中にいる家族だけでなく、壁を乗り越えて復活した学生の家族も引き続き、LINEグループに留まり、日常の思いを吐き出しながら、相互に支えています。

毎年、ホームカミングデイと3月の卒業式前日に、対面とオンラインで本音を語り合う機会を設けると同時に、オフ会（飲み会）を開いて相互の親睦を深め、大学生活に関する貴重な情報共有の場となっています。

アビリティ支援センター父母の会

2021年度から始まった発達障害のある学生の父母の会は引き続き実施されています（第4月曜日の10:00～11:30）。参加者は3～5名程度で、育児の状況を反映してか、多くが母親の参加となっています。

家事や日常生活の手伝いをする 것과自立して欲しい思いとの間の葛藤、留学の心配、休学の功罪、親子のコミュニケーション、さらには本人についての夫婦間での意見の相違や祖父母からの理解の有無などについて、母親自身のサポートが得られていない状態について話題に上がることが増えています。学科や教員とのコミュニケーション、大学のサービスについての質問や情報収集のための場としても活用されているようです。さらに年数が進むにつれてこのまま卒業できるのか、就職ができるのか、といった焦りや不安が語られることも増えてきています。

父母の会は通常はオンラインでの実施となっていますが、毎年ホームカミングデイの日には対面での集まりの機会を持っていて、親同士の支え合いの場として機能しているようです。

02 ワタリニフネ（同窓会支援事業）



ワタリニフネは、名古屋大学卒業生がキャリアや人生について、安心してインタラクティブにやりとりをするための、SNSプラットフォームです。ライフキャリアにおいて、自分らしく、幸せであるために、人生の要所要所で互いに応援しあえるネットワーク、まさに「ワタリニフネ」を目指しています。

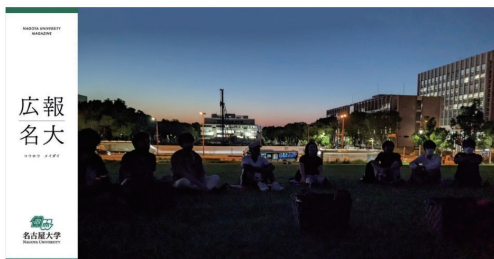
在学生もこのネットワークに参加することで、先輩たちのやりとりを見聞きしたり、質問することができ、将来を考える機会を得ることができます。現在、月一回程度、SNS上で「異業種交流会」「幸せについて考える」「先輩に聞いてみよう」「ライフイベント」など、キャリアに関する様々な交流회가、開催されています。（この事業は名古屋大学全学同窓会の大学支援事業に選定されています）

ID 検索：@ 735hmqec



社会貢献・報道他

名古屋大学 WEB マガジン「広報名大」
2023.10.12



「会話って、いいね」夕暮れの名大キャンパスを歩き語らう「夕方さんぽ」

♡ 9

名古屋大学WEBマガジン「広報名大」
2023年10月12日 16:07

夕暮れ時のキャンパスを、誰かとおしゃべりしながら歩く。ただそれだけで何となくうれしくて、楽しくて、気持ちが晴れたり自分を見つめなおす機会になったりする。そんなイベント「夕方さんぽ」。名古屋大学の一人の大学院生と学生支援本部が運営する「気が向いたらふらっと行ける場所」に、今日も学生たちが集まった。



初対面の3人チームで思い思いの方向へ足を開ける学生たち

午後6時30分。「夕方さんぽ」の終点、豊田講堂の芝生広場に集まった一同は車座になった。「自分の中で抱えていたことを聞いてもらえるだけで、救われた気持ちになった」「普段話さないような人と会話できて刺激になった」「少し前に悲しいことがあり、誰かに話したかった」――。それぞれが、何かを感じ取った様子だった。

散歩が好きな人、もやもやすることがある人、誰かと話をしたいと感じている人。そんな人が「気が向いたらふらっと行ける場所でありたい」と考えている角羽さん。最後に「歩きながら話をするだけのイベントなので、何かを解決したり正解を提示したりすることはできませんが、一緒に歩きながら話することならできます。みんなでこの今を、一緒に生きていけたらうれしいです」と呼び掛けた。



中日新聞
2023.12.8

教育・NIE 学ぶ

障害がある学生の就労支援 大学・支援機関・企業の3者が連携

2023年12月8日 17時54分 (12月8日 17時54分更新)



大学、就労支援機関と企業の担当者が、現状などを話し合った研修会＝名古屋市中千歳区の名古屋大で

名古屋大を中心とする中部地方の国公立大と、民間の就労支援機関、企業が連携し、十分な学力を持ちながらも就職先を見つけにくい発達障害や精神障害がある学生の、就職支援に力を入れている。（酒井博章）

課題・実習で評価

企業は優秀な学生を採用したいが、面接で『コミュニケーションが苦手だな』と思われると採用を見送られてしまう事例が多い

11月16日に名大であった障害のある学生の就職を支援する各大学の担当者向け研修会で、民間の支援機関「Nottoカレッジ」（岐阜県大垣市）の担当者が説明した。このミスマッチ解消に向けて、同機関が企業と共同で始めたのが「実践育成型マッチング」。企業に数週間かけて行う課題を出してもらい、その成果を中心に評価してもらう。今年は企業での実習を経て、発達障害がある学生2人が就職しているという「能力ある学生の就職に可能性を見いだせた」と述べた。

この研修会は、2018年から開催。背景には各大学で、障害がある学生の就職支援に苦戦する事例が増えてきたことがある。

発達障害がある学生数が増加

日本学生支援機構（横浜市）によると、障害がある学生は年々増え、22年5月1日現在で約4万9600人。特に増えているのが発達障害がある学生で、約1万2000人と10年で5倍強に増えた。大学までは就学の支援がつながりつつあるが、次のステップの就職には関門がある。直近の就職率は大学生全体が約97%に対し、発達障害のある学生は約67%と開きがある。

現状を打破していくには大学が支援機関、企業とつながり、障害への理解や認識ギャップを埋めていくことが必要だと考え、名大が研修会を企画した。先行事例の紹介やグループ討論などを行い、課題を出し合いながら解決に向けた支援策などを共に考える。

「障害は個性。環境を整えば活躍できる」

18年の障害者雇用促進法の改正で、発達障害を含む精神障害が法定雇用の対象になった。名大キャリアサポートセンターの竹本孝助助教は取り組みを評価しつつ、「まだ企業の受け入れ体制は十分に整っていない

この記事は中日新聞社の許諾を得て転載しています。



大学ジャーナル UNIVERSITY JOURNAL ONLINE

トピックス | コラム | 研究成果 | 大学入試

TOP > コラム > 名古屋大学、ビズリーチ・キャンパスとの連携により、リーダーシップを育むキャリア教育を実施
2024年8月30日

ビズリーチ・キャンパス キャリア教育の取り組み事例

名古屋大学、ビズリーチ・キャンパスとの連携により、リーダーシップを育むキャリア教育を実施

大学ジャーナルオンライン編集部

OB/OG訪問 PR キャリア支援 名古屋大学



学部・大学院を合わせて16,000名の学生が学ぶ名古屋大学のキャリアサポートセンターは、留学生・障がい学生を含め学生それぞれに対して、「雇用市場の変化」を見据えながら、その時代に合わせたキャリア支援を行ってきた。これまでの施策をブラッシュアップさせ、新たな施策に繋げるケースも多く、その中心となってキャリア支援を進めているのがキャリアサポートセンター長で、大学院経済学研究科教授の土井康裕氏である。キャリアサポートセンターが考えるキャリア支援のあり方と、2024年度に実施した「リーダーシップ開発講座」について、土井氏にお話を伺った。



学生・留学生・障がい学生——雇用市場を見据え、学生のキャリア形成を支援

どんなに優秀な学生であっても、市場のニーズに合っていないければ就職活動は困難なものになる。「この学生は優秀だから、何もなくても企業が評価してくれるだろう」という考えでは、うまくいかない危険性がある。そこで、土井氏は企業と学生の双方にアプローチする。「これまで留学生を採用した実績のない企業と丁寧に対話を重ねることで、企業の人事担当者が留学生の需要があることに気づいた例もあります」と土井氏が語るように、企業と学生の双方に働きかけてきた効果が着実に現れている。それは、土井氏ははじめとする16名の職員が組織的に行動し、常に情報共有をしながら議論を重ね、支援のあり方を模索してきた結果に他ならない。



キャリアサポートセンター長の土井康裕氏。雇用市場の変化を見極め、学生や企業と丁寧に対話を重ねながら、支援のあり方を模索してきた。

もう一つ、キャリア教育において土井氏が重視しているのが「リーダーシップの開発」である。

「かつて、日本でリーダーシップを取るのは組織やチームの『長』でした。率先垂範といって、長がチームを引っ張る。それが、日本のリーダーシップのあり方だったのです。しかし時代は変わり、リーダーシップの定義も変化しました。チームの長による率先垂範だけでなく、一人ひとりのメンバーがリーダーシップを発揮する時代が到来したのです」

土井氏が考えるリーダーシップの定義は、相互支援と課題共有である。チームで何か新しいプロジェクトに取り組む際、メンバーやときにはリーダーをサポートすること。もしくは、互いに支援できる関係を構築していくこと。この「相互支援」もまた、リーダーシップの概念のひとつである。そして、プロジェクトを進めていく上で大切になるのが「課題共有」だ。今、どのような進捗状況で、どのような課題が発生しているのか。課題共有ができていれば、一人ひとりが自分の役割を意識しながらスムーズに課題を解決に導くことができるだろう。

「相互支援と課題共有は、チームとして力を発揮するうえで求められるリーダーシップの重要な要素です」と土井氏。そこで、在学中にリーダーシップを育めるよう、新たな試みとして2024年度にリスタートしたのが、経済学部の学生を対象とした「リーダーシップ開発講座」である。



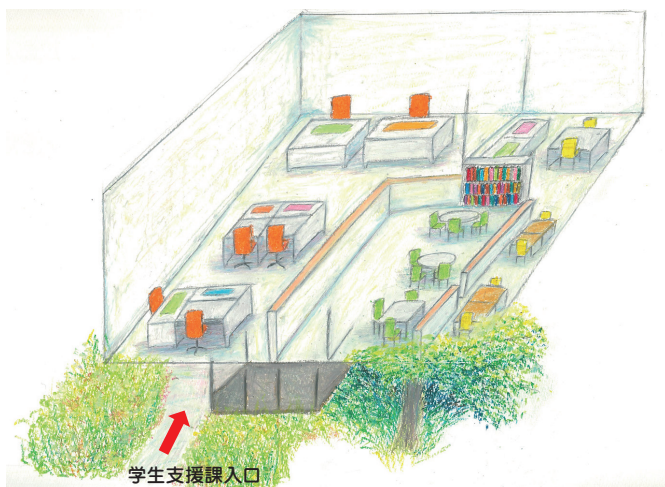
「チームを率いるリーダーだけを育てるのではなく、一人ひとりがリーダーシップを身につけ、チームとして力を発揮できる人材を育てることが重要」と土井氏。

この記事は大学ジャーナルオンラインの許諾を得て転載しています。

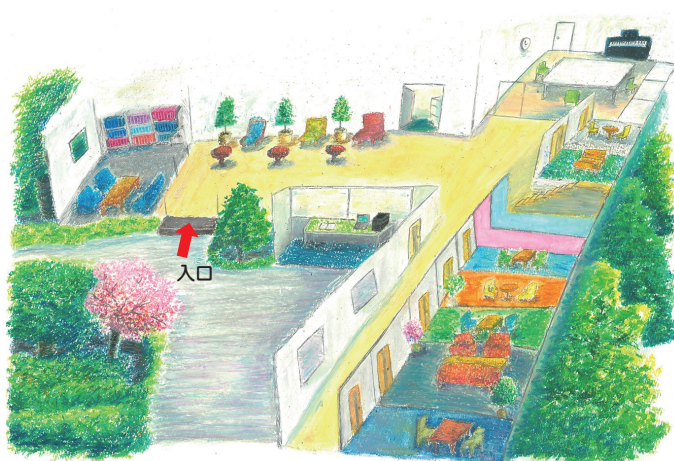


学生支援棟案内図

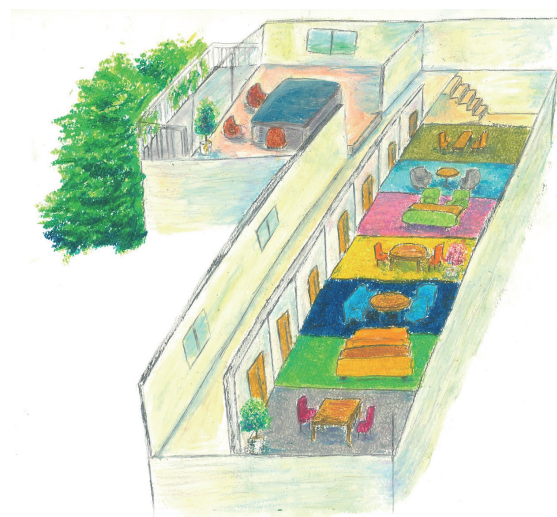
学生支援棟 1F



学生支援棟 2F



学生支援棟 3F



名古屋大学 学生支援本部

学生支援棟

- ・学生相談センター
- ・キャリアサポートセンター

全学教育棟3F

- ・アビリティ支援センター
- 東山キャンパス保健管理室
- ・メンタルヘルス支援部門

IB電子情報館

- ・共修推進部門

開室時間

月～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

連絡先

TEL 052 (789) 5805

E-mail

soudan@gakuso.provost.nagoya-u.ac.jp

住所

〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学学生支援本部

ホームページ

<https://www.gakuso.provost.nagoya-u.ac.jp>

学生支援本部スタッフ一覧

(2025年7月1日現在)

学生支援本部スタッフ

本部長 佐久間淳一（副総長、学生支援担当）
副本部長 鈴木健一

学生相談センター

カウンセリング部門 教育連携室

教授（承）鈴木健一★ 准教授（承）杉岡正典 助教 林陽子
学術主任専門職 松本寿弥☆ 学術専門職 織田万美子
学術専門職 藤田真紀子 学術専門職 伊藤未青
相談員 菅川明子

メンタルヘルス支援部門 共修推進部門（兼任）

准教授 古橋忠晃 助教 長島渉 助教 横井綾
特任准教授 高木ひとみ 准教授 小川しおり 特任講師 和田尚子
学術専門職 深谷麻未

キャリアサポートセンター

就職支援部門（兼任）

教授（承）土井康裕★

就職キャリア相談部門

准教授 船津静代☆ 助教 竹本美穂

博士人材キャリア育成部門（兼任）

特任准教授 森典華

国際キャリア支援部門

学術専門職 上村奈月美 学術専門職 Byambasuren Enkhgerel
相談員 長尾あすか

アビリティ支援センター

修学支援部門

准教授（承）工藤晋平★ 相談員 山木照子

ライフデザイン支援部門

障害者支援専門職 井手原千恵

非常勤カウンセラー

学生相談センター

カウンセリング部門

小山恵 山本玲奈 占詩苑

キャリアサポートセンター

就職キャリア相談部門

栗原りえ

総合受付

大江美希

アビリティ支援センター受付

美濃屋梓

カウンセリング部門受付

鬼頭美典

★ センター長
☆ 副センター長・室長
(承) 承継幹教員ポスト

